

— 中 学 校 —

「選定に必要な資料」の活用について

| | |
|--------------|-----|
| 国語 | 1 |
| 書写 | 9 |
| 社会 | 17 |
| 社会（地理的分野） | 20 |
| 社会（歴史的分野） | 26 |
| 社会（公民的分野） | 37 |
| 地図 | 45 |
| 数学 | 51 |
| 理科 | 62 |
| 音楽（一般）（器楽合奏） | 71 |
| 美術 | 78 |
| 保健体育 | 85 |
| 技術・家庭（技術分野） | 93 |
| 技術・家庭（家庭分野） | 100 |
| 英語 | 107 |
| 道徳 | 117 |
| 参考資料 | 128 |

「選定に必要な資料」は、いずれの種目（教科）においても、次の4つから構成されている。

- ① 観 点 の 内 容：「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を示したもの
- ② 調 査 方 法：カウントした内容・項目について説明したもの
- ③ 調 査 結 果：「観点のための研究調査事項」について○印を入れて示したもの
- ④ 選 定 の た め の 参 考：各発行者の特長を総合的に文章表記したもの

中学校教科用図書「選定に必要な資料」の活用について

滋賀県教育委員会

1 「選定に必要な資料」作成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「選定に必要な資料」を作成するにあたっては、文部科学省の指導通知にもとづき、各採択権者において、より参考となるよう内容の一層の工夫・充実を図った。
- (2) 研究調査については、種目（教科）ごとに学習指導要領に示された目標を達成するための観点を中心として、「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を設定し、客観性を重視した。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、種目（教科）ごとに各発行者の特長を○印で示した「調査結果」を作成した。他の教科書との比較の上、その教科書で重きを置いている研究調査事項の3つに○印を付した。
- (4) 「選定のための参考」については、「調査結果」をもとに、種目（教科）ごとに特長を総合的に文章表記した。
- (5) 中学校英語の教科書採択については、中学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができるとされていることから、種目 英語においては、学習者用デジタル教科書の機能等についても調査研究を行った。

2 「選定に必要な資料」活用にあたっての留意事項

- (1) 「選定のための参考」を熟読し、調査研究に活用すること。
- (2) 「調査結果」の○印のみに注目することなく、総合的に研究調査をすること。
 - ① 「調査結果」の○印と併せて、教科書での取扱い・取り上げ方についても、十分調査研究をすること。
 - ② 「調査結果」の元資料として、観点のための研究調査事項について、項目数やページ数をカウントして作成した「調査結果（数値）」を、参考までに資料の最後に添付している。
- (3) 「研究調査事項」については、「指導についての留意事項」で示した内容をふまえて研究調査に活用すること。
- (4) 「調査方法」については、種目（教科）ごとに示しているので、「調査結果」を見る際の参考にすること。

国語

東京書籍

三省堂

教育出版社

光村図書

観点の内容

国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・語感を磨き語彙を豊かにすること、話や文章に含まれている情報の扱い方に関することを身に付けること、また、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることなどについて指導するよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数 ・説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数 ・説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の学習過程に共通する指導事項「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」をはじめ、目的や場面に応じて、必然性をもって学習を進められるように留意する。 ・「書くこと」の学習過程は「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」と明確に位置付けられている。特に、自分の考えを深め、記述することに対する指導が充実するように留意する。 ・「読むこと」の学習過程が「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」と示されている。「読むこと」領域においては、〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連に留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数 ・国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科及び学年の目標において挙げられている態度等を養い、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実するように留意する。 ・自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うように留意する。 |

調査方法

種目名【 国語 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 相手の行動を促す働きについての記載、話し言葉と書き言葉、事象や行為・心情を表す語句、辞書的な意味と文脈上の意味との関係に関する箇所、類義語、対義語、同音異義語、多義的な意味を表す語句、慣用句、四字熟語、和語、漢語、外来語に関する箇所 ・情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 原因と結果、意見と根拠、具体と抽象という情報の関係に関する箇所、分類、関係付け、引用、出典に関する箇所、情報の信頼性の確かめ方に関する箇所 ・我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 古典、言葉の由来や変化、共通語と方言に関する箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 話題の設定や情報の収集、内容の検討に関する箇所 ・説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」に関する箇所 ・説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」に関する箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数について調査を行う。 (例) 紹介、報告、質問、助言、評価、議論、討論、記録、案内、詩・短歌・俳句・物語・随筆などの創作、手紙、電子メールに関する箇所 ・国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数について調査を行う。 (例) 進んで読書をする事、読書を生活に役立てる事、読書を通して自己を向上させる事に関する箇所 ※新聞、雑誌を読んだり、調べるための資料を読んだりすることを含む。 |

| | |
|------------|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |
|------------|--|

調査結果 国語

| | | 観点A | | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|----------------------------|-------------------------|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|--|--|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 言葉の 特徴や使 用に関する 事項 | 情報 の扱い に関する 事項 | 我が 国の言 語文化 に関する 事項 | 話し 合いの 活動に 関する 事項 | 読書 の楽し みに関 する事 項 | 説 明文 の活 用関 する事 項 | 学 習指 導例 が要 領に 記載 され てい る言 語 | 国 語科 の学 習が 読書 活動 に結 び |
| | | 東京書籍 | 1年生 | | ○ | | | | ○ |
| 2年生 | | | ○ | ○ | | | ○ | | |
| 3年生 | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| 三省堂 | 1年生 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | 2年生 | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| | 3年生 | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| 教育出版 | 1年生 | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| | 2年生 | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| | 3年生 | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| 光村図書 | 1年生 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | 2年生 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | 3年生 | ○ | | | ○ | | | | ○ |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 国語 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「情報の扱い方に関する事項」を論理的な考え方と関連付けて取り上げた「情報と論理の学び」が、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する教材の前後に各学年配置されている。「読むこと」の学習を通して身に付けた力をさらに深めたり、次の「書くこと」の学びに生かしたりすることができるように構成されている。 ・「読むこと」の学習に関連して、教材の欄外に文章中から語句を取り上げて示したり、「広がる言葉」というスペースを設けて語彙を活用する場面を設けたりすることで、語彙を豊かにする工夫がされている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元のテーマに沿って、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」や「書くこと」を関連付けて学ぶことができるように教材が配置され、領域間のつながりが明確である。 ・各学年の巻頭のほか、「日本語のしらべ」「詩の言葉」で詩が扱われている。また、単元の扉のページにも詩歌が掲載され、言語感覚を豊かにすることができるよう重点が置かれている。 ・学習過程を「見通す」や「振り返る」という言葉で示し、「見通す」では、生徒の言葉として気付きや疑問を述べ、課題意識をもって学習に取り組めるようになっている。また、「振り返る」で、生徒が学習したことを言語化して確認できるよう構成が工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「未来を考えるための9つのテーマ」を設定し、自分や社会の未来について主体的に考えられるように工夫されている。各学年末には、特定のテーマについて多角的な視点から考える教材「未来への扉」が設けられ、文章と資料を関連させて理解し、考えを深め、他者と伝え合うことを通して現代社会の課題と向き合えるようになっている。 ・各学年5か所に図書紹介のコーナーを設け、3学年で422冊が紹介されている。本の一部分を掲載したり、生徒が興味をもつように紹介文の表現を工夫したりすることで、読書への関心が高まるような内容となっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入時や家庭学習、学習につまずいたときなどに、全体や個人の目的に応じて活用できる多様なコンテンツがある。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習で活用することができるよう、語彙とその意味、用例を確認できる「言葉を広げよう」のコンテンツがあり、1870語が掲載されている。 | |

| 種目名 国語 | 発行者名 | 株式会社三省堂 |
|-------------------|---|---------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや図表等の情報と文章とを関連付けながら、自分の考えを深める「情報の扱い方」に関する単元が各学年に設けられている。また、資料編に「著作権と引用」や「辞典を活用する」などの内容を掲載し、3学年にわたって資料を収集・整理・活用する力が身に付けられるようになっている。 ・「私の読書体験」や「読書活動」で、著名人の語る読書体験から読書の意義や効果について理解を深めたり、ビブリオバトルやブックトーク等の活動を通して読書に親しむ習慣を形成したりできるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の教材と関連付けて示されている「読み方を学ぼう」では、「何をどのように読めば力がつくのか」という読みの方略が図で示され、他教材や自主的な読書、表現活動に活用できるように工夫されている。各学年最初の説明的な文章の学習の前には、折込形式で3ページ程度の短い文章が配置され、直後の「読むこと」の学習で読み方を活用できるようになっている。 ・各学年の「話すこと・聞くこと」の最初の学習活動として、必ず「グループディスカッション」が掲載されており、話し合いを効果的に行う上での「こつ」が系統的に示されている。 ・「読むこと」の学習の終わりに「学びを広げる」という項目を設けて書く学習活動を示し、「読むこと」を生かして、次の「書くこと」の学習へ効果的につなぐことができるように工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの道しるべ」では、目標を明確にし、ねらいに即した学習過程が示されている。また、「学びを振り返る」「学びを広げる」で自ら学習を調整する力を養うことができるように構成されている。 ・資料編の「読書の広場」には、多様なジャンルの文章が掲載されており、「読み方を学ぼう」で身に付けた力を活用することができるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学びを広げられるように、動画や音声、デジタルドリル、補助教材、作文例等の多様なコンテンツがある。 ・「話すこと・聞くこと」の動画は、活動のイメージを豊かにし、学習のポイントを理解しやすくするのに効果的である。 | |

| 種目名 国語 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の言語生活に即して文法や言語に関する知識を獲得し、理解を深めて活用できるように、コラム「言葉の小窓」「文法の小窓」が設けられ、巻末の「言葉と文法 解説編」と合わせて学習できる構成となっている。 ・各学年に「読書への招待」という情報の扱い方や学校図書館の活用と関連付けて学習できる教材が掲載されており、読書の幅を広げるとともに学びを深められるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年にSDGsに関する「持続可能な未来を創るために」という教材が掲載されており、生徒が課題を発見し、自ら考え、対話を通じて課題を解決できるような学習が設定されている。 ・各学年に「学びのチャレンジ」として、全国学力・学習状況調査やPISA調査などを踏まえた問題が掲載されており、複数の資料や文字以外の情報と文章を関連付けて考える力を養えるようになっている。 ・「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材では、学習活動の流れと重点となる指導事項のつながりが明確に示され、他者の表現を受容するとともに自分の表現力を高められる構成となっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学びへの見通しと期待感がもてるよう、教材の初めに「学びナビ」が設けられており、その教材で取り組む言語活動の中でどのような力を働かせることが効果的か、解説と図解で示すことで活動内容を視覚化・明確化している。 ・「読むこと」の教材に学習の手引きとなる「みちしるべ」が設けられ、生徒が自分の力で読みを深め、考えを他者と伝え合う学びができるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者によるメッセージ動画や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動の全文資料、図書紹介等のコンテンツがある。 ・ワールドカフェやジグソー学習など協働的な学びにつながる学習方法が動画で示されている。 | |

| 種目名 国語 | 発行者名 | 光村図書出版株式会社 |
|-------------------|--|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻末にブックインブック形式の「語彙ブック」が置かれ、描写、言動、思考に関する語句が多数紹介されている。また、「語彙を豊かに」や「言の葉ポケット」「言葉を味わう」などでも、主体的に語彙を増やし、語感を磨く方法が系統的に学べるようになっている。 ・各学年の古典教材には、資料として、登場人物や全体像を解説するコラム、絵巻や地図が掲載されている。生徒の想像力を刺激し、古典の世界への興味・関心を喚起するよう紙面が工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の領域では、生徒にとって身近な題材を取り上げて活動が設定され、目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・「書くこと」の領域では、「書くことのミニレッスン」の練習問題を通して、書き方の基礎・基本を確認した後に、学習活動に取り組めるよう構成されている。 ・単元における学びを次に生かせるよう、「振り返る」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で自己評価が行えるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語の資質・能力を焦点化・視覚化した「学びのカギ」と、思考の手順や活動の流れを見通せる「学びへの扉」を合わせて示すことで、生徒自身が学習内容を的確に理解し、課題解決に向かえるように構成されている。また、全領域の教材に「学びのカギ」を示すことで、領域を超えた学びのつながりが明確になっている。 ・読書教材内の「本の世界を広げよう」や教材末の「広がる読書」など、3学年で447冊の図書が紹介されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・「国語の力試し」には教科書掲載の問題と発展問題が収録され、資質・能力が身に付いたかC B Tで確認できるようになっている。 ・裏表紙に「学校生活や社会生活に役立つ資料」という今日的な課題の解決に関わる動画・音声資料の二次元コードが付されている。 | |

書 写

東 京 書 籍

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

観点の内容

国語科 書写 目標

各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することを目指す。

- (1) 文字を効果的に書くことができる力を育成する。
- (2) 硬筆を使用する書写の能力の基礎を養う。
- (3) 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|---|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none">・字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数・楷書や行書の書き方についての注意例の箇所数 | <ul style="list-style-type: none">・楷書と行書や漢字とかなとの関連的な指導を工夫し、目的や必要に応じた書き方を判断したり効果的に文字を書いたりできるように留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none">・手本となっている文字の数・手本に関わる例示の箇所数 | <ul style="list-style-type: none">・硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導により、硬筆による書写の能力の基礎を養うように留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none">・書写の能力を生かす様々な場面（模造紙にまとめる、手紙を書くなど）の紹介例の箇所数 | <ul style="list-style-type: none">・書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かすように留意する。 |

調査方法

種目名【 書写 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数について調査を行う。 （例）字形、文字の中心、字間、かなと漢字の調和の注意点などの箇所 ・楷書や行書の書き方に関する注意例の箇所数について調査を行う。 （例）筆脈、点画の形や方向、筆順等の比較による留意点に関する記述箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・楷書、行書の手本の数について調査を行う。 ・手本から確認する事項や留意点、特徴についての箇所数について調査を行う。 （例）実際に字を書く時の、点画、筆順等の留意点に関する記述箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・目的や必要に応じて効果的に書くなど、様々な場面の紹介例の箇所数について調査を行う。 （例）手紙を書く、作品を作る、メモをする、ポスターやレポートにまとめる、新聞やリーフレットで発信する、掲示する等、日常生活に生かすための記述箇所 |

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |
|---|--|

調査結果

書写

| | 観点A | | 観点B | | 観点C |
|---------------|----------------------|-----------------------|--------------|--------------|--|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 |
| 調査研究事項 発行者 | の字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数 | 楷書や行書の書き方についての注意例の箇所数 | 手本となっている文字の数 | 手本に関わる例示の箇所数 | （模造紙にまとめる、手紙を書くなど）の紹介例の箇所数 書写の能力を生かす様々な場面 |
| 東京書籍 | | ○ | | ○ | ○ |
| 三省堂 | ○ | ○ | ○ | | |
| 教育出版 | ○ | | | ○ | ○ |
| 光村図書 | ○ | ○ | ○ | | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 書写 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「書写のかぎ」として、楷書や行書で文字を整えて書くためのポイントが、文章で整理され、手本にはどの部分に当たるのかも明示されている。 ・第1学年と第2学年に「行書のまとめ」が掲載されており、行書の書き方について学年を通した学びを振り返り、次の学年の学習につなぐことができるように工夫されている。 ・全学年の終わりに「書写テストに挑戦！」という問題が掲載されており、知識の定着について確認することができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「行書の動きのパターン」として4つを示し、形の特徴だけでなく、動きを意識して行書の書き方をとらえることができるよう工夫されている。 ・朱墨を使って穂先の動きがわかるように手本を示し、その手本に「行書の動きのパターン」や「書写のかぎ」で学んだことをあわせて示している。 ・「1 見つけよう」で課題を発見し、「2 確かめよう」で理解を深め、「3 生かそう」で学んだことを他の文字に生かすことができるように構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末には「書写活用ブック」があり、教科の学習や生活で使う様々な書式などの資料が解説とともに掲載されており、生徒が学習した内容を普段の生活で生かせるよう工夫されている。 ・全学年に「生活に広げよう」という学習が設定されており、日常生活の中で書写を活用する場を具体的に示し、書写で身に付けた力を活用できるように工夫されている。 ・「文字といっしょに」では、文字文化への興味を喚起するコラムを掲載し、高等学校芸術科書道への接続に向け、文字の芸術性に関心がもてるようにしている。 | |

| | |
|------------|---|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・運筆動画の画面上に、「繰り返し」「字幕」「速度調節」等のボタンが表示されており、生徒が目的に応じて操作できるようにしている。 ・運筆動画に「書写のかぎ」と連動したナレーションとテロップによる解説が設けられている。筆順や筆脈を、数字や曲線で示すことで、視覚的に分かりやすくしている。 ・「書写テストに挑戦！」の二次元コードを読み取り、即時に答えを確かめたり、問題を繰り返し解いたりすることができる。教科書に掲載されていない問題も収録されており、理解を深める工夫がされている。 |
|------------|---|

| 種目名 書写 | 発行者名 | 株式会社三省堂 |
|-------------------|--|---------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各教材の学習が見開きで見通せるように紙面が構成され、学習目標や振り返りの視点が具体的に示されている。また、楷書と行書の書き方について、何に注目して学んでいるのかがわかるような項目のタブが示されている。 「書いて身につけよう」という学習の「振り返ろう」では、書き直すという活動を設定し、単元を通して学んだ楷書や行書の書き方について理解が深まるように構成されている。 「書き方を学ぼう」という学習では、書き方を理解するために必要なポイントが具体的に示され、理解が深まるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書の文字が並べて掲載されており、見比べて書き方の違いを確かめながら学ぶことができるようになっている。 硬筆の学習である「書いて身につけよう」では、それまでの毛筆の学習で示していた文字を手本として掲載しており、毛筆で学んだことを硬筆に生かせるように工夫されている。 国語の教科書教材として用いられている小説や詩を硬筆の手本として取り上げることで、硬筆の学習が国語の他の学習場面で活用できるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 学年末の「やってみよう」では、1年間の学習を生かして書く題材が設定されている。 巻末に「日常の書式」「書写の広場」が「資料編」としてまとめられており、学んだことを日常生活で生かせるように、はがきや送り状の書き方、様々な筆記具等が紹介されている。 「篆刻について知ろう」や「書の古典」で、「発展」として高等学校の学習内容を紹介し、高等学校芸術科書道へ関心が広がるように工夫されている。 | |

| | |
|------------|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> 第1学年の「点画の種類と筆使い」と「仮名の字形と筆使い」の運筆動画は、スローモーションで再生できたり、文字を書いている人の視線からのものと手元を写したものの二種類の動画を用いて筆使いを確認できたり、生徒自身で必要に応じて確認できるよう工夫されている。 仮名の字形の整え方について、成り立ちと関連付けて解説する動画があり、文字への興味・関心を高める内容となっている。 運筆動画の画面上に教科書の手本が示されており、書き方のポイントを確かめながら視聴することができる。 |
|------------|--|

| 種目名 書写 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「書くときのポイント」として、楷書や行書の書き方についての留意点がまとめられている。 ・「学習の進め方」に書写の学習用語を用いた話合い活動の具体的な様子を示しており、学びを深める工夫がされている。 ・AB判で横幅が広いいため、学習内容や手順が大きく見開きで示されている。また、半紙形の紙面には教材文字のみが掲載されており、手本に集中して学習できるように工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入に「試し書き」、終末に「まとめ書き」として硬筆で書く活動が設定されており、毛筆で学んだことを硬筆に生かせるような構成の工夫がされている。 ・毛筆の学習では、大きな手本は見開きの右側、点画・筆順の留意点等は左側に固定して配置されており、ポイントが細かく示されている。 ・第1学年と第2学年の学習の最後に「学習を生かして書く」が設定されており、毛筆で学習した行書の書き方を生かして、硬筆に取り組むことができるように構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを日常生活で生かせるように、掲示物や案内文、エアメールなどの書き方が紹介されている。 ・手書き文字や歴史上の人物の書等、豊富な資料を掲載したコラムが多数掲載されており、文字文化の豊かさに触れることができる。 ・中学生が日常で使う筆記具の他、万年筆やガラスペン等、多彩な筆記具を紹介するなどして、場面に応じて筆記具を使い分ける必要性や楽しさに気付くことができるように工夫されている。 | |

| | | |
|------------|--|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・動画に加え、ワークシートや、国語の教科書教材とリンクした資料、文字文化に関連したウェブサイトの紹介等、多様なコンテンツがある。 ・「学習の進め方」についての動画があり、課題発見から話合い活動、練習、振り返りの場面まで、1時間の学習の流れを確認することができ、主体的に学習を進められるように工夫されている。 ・楷書と行書の書き方について、毛筆と硬筆の運筆動画があり、繰り返し確認することができる。 | |
|------------|--|--|

| 種目名 書写 | 発行者名 | 光村図書出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭に「中学書写スタートブック」が設けられており、筆記具の名称や持ち方、書くときの姿勢についてあらためて考えられるように工夫されている。 ・ 行書の四つの特徴を「行書スイッチ」として整理し、アイコンとしても使用することで、ポイントをわかりやすくしている。 ・ 「学びのカギ」に、書写の知識が身に付くように、楷書と行書の特徴や、違いがまとめられている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毛筆の書き方を学ぶ教材では、半紙原寸大の手本があり、また学年や名前が記載されているため、文字の大きさや配置を確認しながら書くことができるようになっている。 ・ 巻末にある「中学生のための漢字字典」では、常用漢字表、人名用漢字表、片仮名・数字・アルファベット、部首別行書一覧といった様々な行書の手本が紹介されている。 ・ 教材ごとに「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3つのステップで学習の進め方が示されており、「生かそう」の項目では、学んだことを日常に生かせるよう、硬筆の手本と書き込み欄が設けられている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き初めの由来やポイントをまとめた「書き初めマスターブック」や、様々な地域の文字、用具等を取り上げた写真資料など、多様な教材が掲載されており、生徒が豊かな文字文化に触れることができるようになっている。 ・ ミニコーナー「SDGs×書写」が設けられており、SDGs行動宣言を作成する教材や、プラスチックフリーを目指した書写の道具例等が掲載されている。 ・ 取り外し可能な別冊「書写ブック」（硬筆練習帳）が付属されており、課題に取り組むことで、毛筆で学んだことを定着させ、日常に生かせるようになっている。 | |

| | |
|------------|---|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 書写体操、整理体操に加えて、タブレットを使う時の配慮事項等についての動画などが扱われている。 ・ 仮名文字「いろは歌」の1文字ずつについて運筆動画が収録されており、手本にしたい文字を選んで、繰り返し視聴することができる。 ・ 動画、写真、補助教材、参考資料、アニメーション等の、コンテンツの種類と数が多い。 |
|------------|---|

社 会

(地理的分野)

(歴史的分野)

(公民的分野)

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

1

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・単に知識を身に付けるのではなく、基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識として獲得するよう留意する。 ・小学校の社会科での学習を踏まえるとともに、高等学校の地理歴史科、公民科での学習を視野に、中学校社会科の学習において生徒が身に付けることが目指される技能を繰り返し活用し、その習熟を図るよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察するよう留意する。 ・現実社会において生徒を取り巻く多種多様な課題に対して、「それをどのように捉えるのか」、「それとどのように関わるのか」、「それにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で、それらの課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることができるよう留意する。 ・考察、構想（選択・判断）したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりするよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べ分かれようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。 |

調査方法

種目名【 社会 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識を身に付けるための学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「中世」や「近世」といった時代の特色を踏まえた学習内容の箇所 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「中世の日本」を大観するなど、自分の言葉で表現する学習内容の箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「他地域とのつながり」などを踏まえた学習内容の箇所 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択したり判断したりする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「環境問題」などを踏まえた学習内容の箇所 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「雨温図」を用いて気候の特色を捉えるなどの学習内容の箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に入れ、課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「持続可能な社会」の実現を目指そうとするなどの学習内容の箇所 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解するための学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「対立と合意」に着目して考察しようとするなどの学習場面の箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

社会（地理的分野）

東京書籍

教育出版

帝国書院

日本文教出版

調査結果 社会(地)

| | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|-------------------|---|--|--|---|--|--|---|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 学知活治我 習識用、が 内でき、社 容につ、会 のるに、経 簡理お、済 数解念、国 させな、土 ためるに、 のすに、 の政 | に効調 付果査 けるや のに諸 学習に資料 べまから 内容の様 の簡とめ 数技な情 能を報 を身 | にや社 考相会的 察互的事 する象 学関の 習連の べ多意味 内容や の簡面的 数・意 所角義、 数特 的色 | 内け社 容て会 の選に 簡択見 所・ら 数判 断 した りの 課 題 の 解 決 の 学 習 向 | るり思 学、考 習そ・判 内それ断 容をら のを基 簡所に 数議 論 を 説 明 し た り し た | の的社 簡に会 所解会的 数決実 現象 しよに よう視 と野 とす る課 題 をよ 学り 習主 内を 容体 | た多社 め角会的 のの事 学な象 習考 内容 のや 簡深 数く 理 解 さ せる ・ |
| 東京書籍 | | ○ | | | ○ | | ○ |
| 教育出版 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 帝国書院 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 日本文教出版 | | ○ | ○ | | | | ○ |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 社会 (地理的分野) | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各節の「聞かせて！中学生」という欄で、世界や日本の各地の中学生が自分の暮らす地域について紹介しており、生徒が学習内容をより身近に感じ、興味・関心がもてるよう工夫されている。 巻頭で「地理を学ぶ5つのミカタ」として、「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」の5つの見方を紹介している。また、学習活動を行う際に生徒がどの見方・考え方を働かせたらいいいのか意識できるように、それぞれの活動に虫眼鏡のマークを付けて示している。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> コラム「もっと知りたい！」を設定し、本文に関連する内容を記載し、事象を多面的、多角的にとらえることができるようにしている。 世界の地域について学ぶ章の「まとめの活動」のページに「地球的課題をふり返ろう」というコーナーがあり、写真を見ながら地域が抱える課題を読み取り、どのような内容なのか、学習を振り返って説明する活動が設定されている。 「まとめの活動」のページに「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けて、グループで話し合う活動を設定している。意見を交流する場面をすることで、多角的に考えることができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 1時間の最後に取り組む「チェック&トライ」では、「トライ」の問題で学習内容と自分の住む地域と比較し、関連付けて考察するなど、学んだ知識を活用するようになっている。 節末の「まとめの活動」に探究課題や特設ページ「資料から発見」が設けられており、これまでの学習を多角的に考察し、学習を振り返ったり、さらに理解を深めたりして、課題を主体的に解決しようとする学習となるよう工夫されている。 | |

| | | |
|------------|--|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> 「チェック&トライ」を専用ワークシートに記入した後、画像保存できるようになっており、授業者に一斉送信して画面共有したり、評価の材料にしたりできるように工夫されている。 「なるほど！スキルアップ」という技能習得のためのコーナーを解説する動画がある。 | |
|------------|--|--|

| 種目名 社会 (地理的分野) | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・各節の学習コラム「地理の窓」には、多面的・多角的な見方や概念などの知識が身に付くように学習内容と関連する多様な情報が掲載されている。 ・用語や資料についての解説が掲載されており、生徒の理解を助け、知識の確実な習得へつながるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2編「世界のさまざまな地域」の第2章「世界の諸地域」では、各節の冒頭にその地域の地球的課題が明示され、「学習したことを活用してまとめよう」の項目で、課題解決に向けた自分の関わりを考える構成となっている。 ・資料を読み取り、考察したり、効果的に活用したりするために「THINK!」や「Q」といった欄で問いかけたり活動を示したりしている。 ・見開きごとに、「確認!」の問いで、この時間で学習したことを振り返ったり、「表現!」の問いで、学習してきたことを活用したり、話し合ったりする内容が示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のまとめと表現」のページでは、評価の3観点が示されているとともに、既習内容を多面的・多角的に考察し、振り返ることができるようにしたり、課題発見できるようにしたりして、学んだことから次の課題が発見できるように工夫されている。 ・図や写真を大きく掲載して細部にまで目を向けることができるようにしたり、「バビロニアの世界図」などの特色ある資料を扱ったりして、様々な視点で事象を考察できるようにしている。 | |

| | | |
|----------------|--|--|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」では、学習した単語についての語句クイズがあり、前時の復習を短時間で行う時などに活用できる。 ・地形図の動画では、断面図の作成方法や新旧の地形図の比較方法などが順を追って説明されている。 | |
|----------------|--|--|

| 種目名 社会 (地理的分野) | 発行者名 | 株式会社帝国書院 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページの最下部に小学校や他分野、他教科の学習内容との関連を明示しており、学んだことを様々な場面で活用したり、物事を多面的・多角的にとらえたりすることができるようになっている。 ・ 「地図帳活用」という欄があり、地域の特色をとらえる際に、位置や分布、他地域との結び付きなどを地図上でとらえる活動が設定されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 章や節の終末に位置付けられている「学習を振り返ろう」では、章や節全体に関わる問いについて学習を振り返り、自分の考えをまとめる活動が設定されている。 ・ 特設ページ「アクティブ地理AL」の「TRY」という欄で、資料を調べたり、他者と対話したりという課題解決に取り組む学習を行う際に必要な方法を示している。 ・ 見開きごとに、「確認しよう」で重要事項を書き出し、「説明しよう」で自分の言葉で説明する活動を通して学習内容を振り返ることができるようにしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特設ページ「アクティブ地理AL」を設け、地域に見られる課題について、自分の考えをまとめたり、他者と意見を交換したりすることで社会的事象を多面的・多角的に考え、思考を深めることができるような活動が示されている。 ・ コラム「未来に向けて」では、未来の社会をつくる取組を紹介することで、持続可能な社会づくりを目指す人々同士の関わりや、今後の自らの選択・判断について考えられるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 図解アニメーションや写真を閲覧することができる。操作しやすいように、トップ画面でコンテンツの一覧が見られたり、コンテンツをマークで表す視覚的な支援をしたりするなどの工夫がある。 ・ 学習に活用できるウェブサイトへのリンク集や「学習を振り返ろう」に対応したワークシートなどにアクセスできる。 | |

| 種目名 社会 (地理的分野) | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|--|------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページの最下部に小学校の学習や歴史的分野、公民的分野とのつながりを示す欄が設けられ、これまで学習してきた内容とこれから学習する内容とのつながりが示されているため、生徒が習得すべき知識を意識できるようになっている。 ・ 技能について詳しく内容を解説する「スキルUP」と、資料を使った具体的な作業を通して理解を深める「トライ」の欄を設け、地理の学習を進めるにあたって必要な技能を系統立てて習得できるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各節の「まとめとふり返し」は、評価の3観点が示されているとともに、基本的な知識を確認し、地域の特徴を考察した後、地域が抱える課題について議論をする構成になっており、生徒同士の協働的な学びを促す工夫がされている。 ・ フィッシュボーンやクラゲチャート等、多種の思考ツールが提示されており、考えを整理し、多面的に思考できるように工夫されている。 ・ 見開きごとに、「確認」と「表現」の問いが示され、最後に学習内容を確認することができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容と関連した今日的な課題や世界の情勢について紹介・解説する「持続可能な地域をめざして」は、学習したことを踏まえて、多面的・多角的に考察したり、考えをさらに深めたりすることができるようになっている。 ・ 節の初めに「節の問いを立てよう」のページが設けられており、自身の疑問や予想を記入することで、各節の学習に主体的に向かうことができるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「小テスト」で学習した内容をすぐに振り返ることができるようになっている。 ・ 雨温図作成ツールがあり、世界各地の都市を選んで、対象地域と比較ができる。雨温図同士を重ねて表示できるなど、生徒が考察するための工夫がされている。 | |

社会（歴史的分野）

東京書籍

教育出版

帝国書院

山川出版社

日本文教出版

自由社

育鵬社

学び舎

令和書籍

調査結果 社会(歴)

| | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|---------------|----------|-------------|--------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|-------------------|-------------------|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 学習内容の箇所数 | 活用できる内容の箇所数 | 我が国の歴史、現代の政治、経済、国土関係等に關する概念などに関するための | 調査や資料から様々な情報を身に付ける学習内容の箇所数 | 社会的現象の多面的な考察について、多面的な内容を深く理解させる | 思考・判断したことを説明したりする | 社会的現象について、よりよい内容を |
| 東京書籍 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 教育出版 | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 帝国書院 | | | | ○ | | | ○ |
| 山川出版社 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 日本文教出版 | ○ | | | | ○ | ○ | |
| 自由社 | ○ | ○ | | | | | ○ |
| 育鵬社 | ○ | | | | | ○ | ○ |
| 学び舎 | ○ | | | | | ○ | ○ |
| 令和書籍 | ○ | | | ○ | | | ○ |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭の「資料から発見」という特設ページでは、資料を読み取ったり、考えたりする問いを設定して、資料を主体的に読み取ることにより、発展的な知識を身に付けることができるようにしている。 ・ 「スキルアップ」のコーナーを設け、歴史学習に必要な資料の読み解き方や調べ方、まとめ方等の基礎的・基本的な技能を確実に定着させることができるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の最後に取り組む「チェック&トライ」の欄が設けられており、学習課題を振り返って知識の定着を図るとともに、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 ・ 活動や問いを示した箇所には、どのような見方・考え方を働かせて考えればよいか「虫眼鏡」のマークとともに記載されている。 ・ 章の導入や終末部に「みんなでチャレンジ」のコーナーが設定されており、個人で取り組む活動と対話的な活動を組み合わせて学びを深めることができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ コラム「もっと知りたい！」や「未来にアクセス」では、歴史的事象や人物について発展的な学習に取り組めるよう関連する情報が提示されている。また、「環境・エネルギー」、「人権・平和」等のマークを付し、現代的な諸課題との関連が分かるようにしている。 ・ 章のはじめに「探究する問い」と課題を追究するステップを示しており、学習の見通しをもち、学び方を身に付け、主体的に学習できるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「動画で学ぼう！」「学びを深めよう！」「学んだことを確かめよう！」などのデジタルコンテンツが設定されており、導入→展開→まとめという学習活動の中で、場面に応じて活用できるよう工夫されている。 ・ 単元のまとめの活動として活用できるように、ワークシートや思考ツールが用意されている。 | |

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを広げたり深めたりできる「歴史の窓」というコラムが掲載されており、学習したことから興味・関心を広げることで知識の定着を図り、概念などを理解するのに役立てることができる。 ・「歴史の技」のコーナーを設けており、資料について、どのように情報を読み取ればよいのか、問いをもとに考えるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「THINK!」や「Q」という問いが示されており、地図・グラフ・絵・図解等の資料を読み取って考察する学習活動が設定されている。 ・見開きごとに、「確認!」の問いで、この時間で学習したことを振り返ったり、「表現!」の問いで、学習してきたことを活用したり、話し合ったりする内容が示されている。 ・単元の終末部などに「JUMP!」や「TRY!」等の発展的な活動が設定されており、時代の転換点や特色について深く考えられるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・国宝や世界遺産に関する絵画資料や写真資料を掲載することで、歴史学習への興味・関心を広げることができるようになっている。 ・特設ページ「身近な地域の歴史を調べよう」や「歴史をさぐる」では、現在とのつながりについて考察できるようにテーマや課題が設定されており、より探究的な学びにつながるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」には、省庁や博物館へのリンク集や動画などのコンテンツがある。 ・各章のまとめとして、関連するクイズや練習問題などが設定されており、繰り返し解くことで学びを深めることができるようになっている。 | |

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 株式会社帝国書院 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各時代の冒頭に示してある「タイムトラベル」のイラストや資料から、単元の学習内容を見通したり、前後の時代と比較して時代の特徴をとらえたりすることで、既習の知識を生かして考えることができるよう工夫している。 「技能をみがく」のコーナーが設けられ、「歴史的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的技能が習得できるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 「歴史を探ろう」が設けられ、学習したことをもとに学びを広げたり深めたりできるような具体的なテーマが示されている。 単元末に「学習を振り返ろう」のページが配置され、章の学習で得た知識・技能を生かして「歴史的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して選択したり判断したりする課題が設けられ、評価の観点も示されている。 特設ページ「アクティブ歴史AL」のページで、「対話」のコーナーに意見の交流や発表を行う対話的な学習を設定することで、自身の考えを深めたり、他者の意見から学んだりして学習が深まるよう構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> コラム「未来に向けて」では、「防災」「平和・安全」「環境・エネルギー」などの視点を示して、歴史的事象から現代的な課題にアプローチできるよう工夫されている。 コラム「地域史」や「歴史を探ろう」のページでは、具体的な地域やテーマを通して学んだ内容を深く追究できるよう課題設定されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> 章や節の始まる部分に二次元コードが設置されており、他分野との関わりを確認することができる。 動画や用語解説、思考ツールなどが設定されており、単元の導入やまとめなど、学習の様々な場面で活用できるようになっている。 | |

| | | |
|-------------------|---|-----------|
| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 株式会社山川出版社 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「コラム」や「人物」「用語解説」というマークを付して、本文の内容に加えて読むことで、幅広い知識を身に付けることができるようになっている。 ・世界遺産や国宝などの写真資料やグラフ、コラムなどに関連して、「Q」を付した問いを示し、資料を読み解くだけでなく、そこから考えを広げたり深めたりできるようにしている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・政治だけでなく経済や文化についても記述が充実しており、歴史的事象を多面的・多角的に考察できるようになっている。 ・毎時間の学習課題が多面的・多角的な視点から考えられるような問いの形で記載されており、問いに対する答えを考えることで、内容を理解したり学びを深めたりできるようにしている。 ・「歴史を考えよう」や章のまとめのページには、他者との対話を通じて学びを深める活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ステップアップ」の欄では、本時で獲得した知識をもとに、当時の状況について考えたり、現代社会とのつながりについて考えたりできるよう資料や問いを工夫している。 ・「歴史へのアプローチ」や「地域からのアプローチ」では、学んだことをもとに主体的に課題を見つけ、多面的・多角的に考えることができるように構成されている。 | |
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードから関連する動画や資料などを細かく確認することができる。 ・学習した内容に関する博物館、資料館のウェブページを確認できる。 | |

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「人物コラム」「先人に学ぶ」「各時代の女性」「歴史+α」といったコラムや特設ページを設定し、幅広く知識を得られるよう工夫されている。 ・「スキルUP」の欄では、情報の収集や読み取り、まとめに関する技能を取り上げて解説しており、技能の定着に生かすことができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとに、「確認」と「表現」の問いが示され、学習したことを確かめ、自分の考えをまとめて説明したり、書いたりする問いが設定されている。 ・「地域に学ぶ」や「でかけよう！地域調べ」では、複数のテーマで具体的な事例を紹介し、課題を追究する活動を示すなどして、身近な地域から歴史を学んだり、考えを深めたりすることができるようになっている。 ・コラム「チャレンジ歴史」や「学び合い」の欄では、資料の読み取りや、生徒が選択・判断する課題を示すことで、思考・判断したことをもとに説明したり議論したりすることができるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史を掘り下げる」では、テーマにそって解説文や資料を提示して、歴史的事象を深く理解したり、発展的に学んだりすることができるようにしている。 ・編や章の初めに「編の問いを立てよう」や「章の問いを立てよう」のページが設けられており、疑問をもったり予想を立てたりすることで、学習への見通しをもち、主体的に学習に向かうことができるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・節の最初のページにイントロダクションムービーが設定されており、学習の見通しをもつことができる。 ・節ごとに小テストが設定されており、学習内容の定着を確かめることができる。 | |

| | | |
|-------------------|---|---------|
| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 株式会社自由社 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・章末に「復習問題のページ」を設けており、基本的な知識の定着について確かめることができるようになっている。 ・章末に「調べ学習のページ」を設け、資料を読み解いたり、分かったことをまとめたりする技能を働かせることができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ページの最下部に学習した後に挑戦したい課題として「チャレンジ」のコーナーが設定されており、既習内容を活用して取り組むことができるようになっている。 ・章末の「時代の特徴を考えるページ」では、時代の違いを比較・整理することを通して、時代の特色をとらえる問題が設定されている。 ・「対話とまとめのページ」では、時代の流れにそった「まとめ図」をもとにした対話の例が示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ」のコーナーでは、歴史的事象が現代に及ぼす影響や課題を考えるような問いが設定されており、歴史的事象と現代社会をつなぐことができるよう工夫されている。 ・「もっと知りたい」「人物クローズアップ」等のコラムで知識の幅を広げたり、興味・関心を高めたりすることができるようになっている。 | |

| | |
|------------|--------------------------|
| デジタル教材について | ・二次元コードがなく、デジタル教材の設定がない。 |
|------------|--------------------------|

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 株式会社育鵬社 |
|-------------------|---|---------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「人物クローズアップ」や「歴史ビュー」のコーナーで、歴史上の人物や歴史に関わる出来事の意味を詳しく紹介したり、解説したりしており、本文で学習する内容と関連させて読むことができるようになっている。 ・「資料活用」の欄で問いを設定し、情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けられるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に取り組めるよう「節の課題」が節の冒頭に示されており、課題を意識して学習できるようになっている。 ・「見方・考え方」のマークを付して、「推移」「比較」などの歴史的な見方・考え方を働かせて取り組む課題を示し、学習を深めることができるような活動を設定している。 ・「探究」や「TRY!」のコーナーでは、学習内容を参考に説明したり、調べ学習やグループ活動をしたりする活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・序章に「身近な地域の歴史の調べ方」に関するページを設け、歴史的な見方・考え方を働かせて、主体的に調査学習に取り組む活動が設定されている。 ・特設ページ「歴史ズームイン」では、学習内容をもとに、身近な地域や現代的な課題を考察することができるよう資料や解説を掲載するとともに、考えを深める問いや課題が示されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・目次に二次元コードが設置されており、章ごとの学習内容に関連する動画を閲覧することができる。 ・学習に役立つウェブサイトから情報を収集することができるように設定されている。 | |

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 株式会社学び舎 |
|-------------------|--|---------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ A4版サイズで、絵画資料・写真・新聞・統計資料など、多様な資料を大きく鮮明な画像で掲載したり、紙面を広く使ったりして資料を見やすくしている。 ・ 章末に練習問題や学習を振り返る課題をまとめて掲載しており、知識や技能の定着を確認できる。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 章の扉ページに、北極を中心とした世界地図をえがき、章のテーマに基づいたその時代の各地の様子をあらわす資料を示している。大きな時代を見渡した学習課題を設けることで、時代の特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できるよう工夫している。 ・ 章や部のまとめのページでは、様々な人々へのインタビュー記事を作成する活動や時代の変化を絵に表す活動を通して、学習を通して学んだ課題をどのようにとらえ、解決のためにどのように選択・判断するのかを考えられるようにしている。 ・ 章や部のまとめのページでは対話的な活動が設定されており、他者と交流することで、考えを広げたり深めたりできるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 章の学習の振り返りでは、時代の特色を前の時代と比較することでその時代を多面的・多角的に考察できるように構成されている。 ・ 「歴史を体験する」のページでは、1つのテーマに対して体験的な学習に取り組めるように示されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次元コードがなく、デジタル教材の設定がない。 | |

| 種目名 社会（歴史的分野） | 発行者名 | 令和書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ B5サイズで資料などがコンパクトにまとめられている。また、ページ数が多く、文章による記述や文献資料が縦書きで掲載されている。 ・ 「課題」や「考えよう」という問いが示されており、本文を読む前に課題を確認したり、学んだことを確かめたりできるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えよう」の設問では、時代ごとの違いを比較し、考える課題が設定されている。 ・ 各単元の終末に設置されている「まとめ」のページでは、単元で学んだ語句を使って、自分の言葉でまとめる活動が設置されている。 ・ 「field work」として、テーマにそって調べ学習を行い、レポートにまとめたり発表したりする課題が設定されており、まとめ方の例も示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文献資料の現代語訳が示されていたり、複数まとめて示されていたりする。 ・ 地図資料や「日本美術図鑑」などの資料が巻末にまとめて付されている。 | |
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「承久の乱（承久の変）」についての漫画が掲載されている。 | |

社会（公民的分野）

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

日 本 文 教 出 版

自 由 社

育 鵬 社

調査結果 社会(公)

| | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|---------------|--|--|--|---|--|---|--|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 学知活活我 習識用、が 内でき、社 容につ、会 のいてるに の解るに、 所理概念お 数さな、け せると、開 ため場々、 のすに、 ので、政 | に効調 付果査 けるや のにに諸 学調資料 習べまから 内内容様 の簡のる々 所技な情 数能を報 を身を | にや社 考相会的 察互の事 する象 学連の意 習を味や 内多面 容的義、 の簡・多 所角、特 数色的 | 内け社 容て会 の選に 簡択見 所・ら 数判れ 断る課 したり題 するの 学解決 習向 | るり思 学、考 習そ・判 内れ断 容のし のを基 簡所に 数議 論を説 した明 たりし す | の的社 簡に会 所解会的 数決実 しよう 野に とす 課 学題、 習より 内をよ 容をい | た多社 め角会的 のの事 学習象 内容につ のやいて、 簡の深く、 所理解 数させる 面的 |
| 東京書籍 | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 教育出版 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 帝国書院 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 日本文教出版 | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 自由社 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 育鵬社 | ○ | ○ | ○ | | | | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「もっと解説」では用語を解説し、「もっと知りたい」では現代社会の様々な事象や課題を深く認識できる具体的な事例を挙げている。知識を定着させたり、概念を理解したりできるように構成を工夫している ・公民の学習に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けることを目的にした「スキルアップ」のコーナーが設定されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の見方・考え方を働かせて考えることができるように「対立・合意」「希少性」といった視点の例が複数箇所示されており、社会的事象の意味や意義について多面的・多角的な視点で考察できるようになっている。 ・様々な思考ツールを用いて自分の考えをまとめたり、グループ内で議論したりする活動が設定されており、対話を通して自分の考えを深めることができるようになっている。 ・1時間の最後に取り組む「チェック&トライ」には、今後の社会の展望について学習内容から考察する課題が示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各章のはじめにある「導入の活動」で学習課題を追究するきっかけとなる資料を読み取ったり、話し合う活動に取り組んだりすることで、後の学習に主体的に臨めるようにしている。 ・章の終末には「まとめの活動」が設定され、「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」に分けて学習できるよう構成されている。思考ツールを活用して考えを整理したり、対話的な活動をしたりして、「導入の活動」で取り組んだ各章の問いについて多面的・多角的に考察し、課題をまとめることができるようになっている。 | |

| | | |
|------------|---|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関連する動画資料が用意されている。 ・章のはじめで活用できるデジタル教材「導入クリップ」があり、章の学習内容をイメージし、見通しをもって学習に取り組むことができるようになっている。 | |
|------------|---|--|

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・コラム「公民の窓」では、社会的な事象や現代社会における様々な課題について詳しく紹介したり説明したりして、学習内容から興味・関心を広げ、概念を理解することにつながるよう工夫されている。 ・写真や統計データなどの資料には問いが示してあり、資料から情報を読み取ったり、意味を考えたりするような視点を与えている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に対して多面的・多角的に考察する活動として「THINK!」という欄が設けられており、資料を読み取って、今後解決すべき課題について考えることができるようになっている。 ・「TRY!」というコーナーでは課題解決の過程にそって活動するよう構成が工夫されており、他者とのやり取りを通じて考えを広げたり深めたりする活動が位置付けられている。 ・見開きごとに、「確認!」の問いで、この時間で学習したことを振り返ったり、「表現!」の問いで、学習してきたことを活用したり、話し合ったりする内容が示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章の最後に「学習のまとめと表現」という学習が設定されており、「HOP!」「STEP!」「JUMP!」と段階を追って思考を深められるようになっている。 ・特設ページの「持続可能な社会に向けて」では、身近に起こり得る事象を想定し、対話的な活動を通して多面的・多角的に考え、深く理解できるような学習が設定されている。 | |

| | | |
|----------------|--|--|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びリンク」では、動画資料が活用できるようになっている。 ・「中学社会クイズ」が各章に設けられており、ドリルとして活用することで理解度を測ることができる。 | |
|----------------|--|--|

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 株式会社帝国書院 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「未来に向けて」や「公民プラス」といったコラムを設け、環境や平和、人権などのテーマで実際の様々な取組や事例を紹介しており、本文で学んだことへの理解が深まる内容となっている。 ・「資料活用」の欄では、資料を読み取る視点や学習活動を示し、資料から効果的に情報を得て学びを深める工夫がされている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「確認しよう」「説明しよう」の欄を設け、現代社会の見方・考え方を働かせて社会的事象の意味や意義について様々な視点で考察し、自分の考えを発信するように構成されている。 ・特設ページ「アクティブ公民AL」やコラム「アクティブ公民」を設け、社会に見られる課題の解決に向けて、多面的・多角的に解決策を考える問題解決型の課題を設定している。 ・対話を通して思考を広げる設問が豊富にあり、他者と議論する中で自分の考えをまとめることができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の前に」では、単元の導入としてイラストを読み取る活動を通して章全体の学習内容に見通しがもてるようにしている。 ・「探究学習への準備」は、章の学習を振り返り、対話的な活動を通して自らが設定した課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができる活動が設定されている。 | |

| | | |
|------------|---|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材の中には、動画資料や統計資料など学習内容の理解を深めるための資料、思考ツールや白地図が用意されている。 ・「アクティブ公民AL」は国税庁や、日弁連などのホームページへのリンクがされており、社会的事象について主体的に調べ分かっていく態度が養えるよう工夫されている。 | |
|------------|---|--|

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|--|------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「明日に向かって」や「公民+α」は、現代社会の新たな課題についての具体的な例が紹介されていたり、社会参画への手がかりが示されており、学習で得た知識や概念を実生活と結び付けてとらえたり、深めたりする内容となっている。 ・「情報スキルアップ」では、新聞やインターネット上の情報について考えるために、具体的な事例や詳しい資料を掲載し、資料を読み解く際にどのようなことが大切なのか確認できる内容となっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとに、「確認」と「表現」の問いが示され、学習課題に対応し、学習したことを確かめて自分の考えをまとめて説明したり、書いたりする問いが設定されている。 ・「アクティビティ」のコーナーには、社会的事象に対して多様な視点で考察することができる問いや活動が設定されている。 ・他者との話し合いを通して自分の考えを深めることができるような学習に「学び合い」と示されており、活動の意図が明確になっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章の導入「学習のはじめに」では、課題や問題を提起する内容の漫画が提示され、章の問いを確認できるため、後の学習への見通しをもつことができるようになっている。 ・章末の「チャレンジ公民」は、5つのテーマに対して「自分ならどうするのか」という問いが設定されており、資料の分析や対話的な学習活動を通して、多面的・多角的に考察し、理解を深め、社会参画への意欲を高める内容となっている。 | |

| | | |
|------------|---|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・節の最初のページにデジタル教材「イントロダクションムービー」があり、活用することで、見通しをもって学習に取り組むことができるようになっている。 ・「確認小テスト」や「ポートフォリオ」などがデジタル化されており、学習内容をデータで蓄積することができるようになっている。 | |
|------------|---|--|

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 株式会社自由社 |
|-------------------|---|---------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の学習の最後にあたる部分に、「ここがポイント」が掲載されており、学習内容を振り返り、知識を整理することで、基礎的・基本的な知識や概念の定着を図ることができるようになっている。 ・ 「やってみよう」の欄では、資料や教科書の文章から必要な情報を取り上げてまとめたり、話し合ったりして学習内容を活用することができるようにしている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ コラム「ミニ知識」では、現代社会の見方・考え方を働かせて考えるのに適した発展的な内容が掲載されており、学習内容を多面的・多角的に考察できるようになっている。 ・ 社会に見られる課題に関する解決策を考えたり議論したりする課題が、「アクティブに深めよう」として、節や章の終わりに設定されている。 ・ 章の最後に「学習のまとめ」「学習の発展」が設定されており、「学習の発展」では、現代社会の課題に対する自分の考えを約400字でまとめて記述するなど、表現する力を高める工夫がされている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アクティブに深めよう」のページでは、資料をもとに学習したことを整理し、対話的な活動を通して課題を主体的に解決しようとする学習内容が提示されている。 ・ 「課題の探求」のページでは、資料の読み取りや対話的な活動を通して学習課題を自ら設定し、解決に向けて主体的に学習に取り組む意欲が高まるよう工夫されている。 | |

| | |
|----------------|---|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次元コードがなく、デジタル教材の設定がない。 |
|----------------|---|

| 種目名 社会（公民的分野） | 発行者名 | 株式会社育鵬社 |
|-------------------|--|---------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・コラム「学習を深めよう」では、社会的事象や世界的な課題について写真や図、グラフなどを使って具体的な例を紹介し、学習した知識と結び付けて理解できるようになっている。 ・複数の資料を比較して読み取ったり、自分で資料を探して調べたりする活動が「資料活用」として設定され、資料を調べまとめる技能を身に付けることができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事や生活に影響がある社会的事象を取り上げ、「見方・考え方」のマークを付して、様々な視点で自分の考えをまとめる課題が設定されている。 ・章ごとに学習内容の「入り口」のページを設けるとともに、学習の最後に「これから」というページを設け、それぞれに問いや活動が設定されている。 ・1時間の学習の終末に取り組む「探究」の活動で、学習内容を踏まえて自分の考えをまとめたり、説明したりすることができ、思考力・表現力を高めることができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「探究」は、社会的な課題解決のために自分ならどのように考えたり実践したりするかという問いが設定され、主体的に課題を解決しようという意欲を高める工夫がされている。 ・「学習のまとめ」のページでは、実社会で起こりそうな事象を挙げ、その課題について多面的、多角的に考察を深め、選択・判断したことを社会生活に生かそうとする態度を養うことができるよう工夫されている。 | |

| | | |
|----------------|--|--|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・章の学習の最初に二次元コードが掲載されており、学習内容の理解を深めることができる動画資料にリンクできるようになっている。 ・様々な統計データが記載されている省庁のホームページとリンクしており、学習内容を深めるために必要なデータが取得しやすくなっている。 | |
|----------------|--|--|

地 図

東 京 書 籍

帝 国 書 院

観点の内容

社会科 地図 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数 ・見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書「地図」は、地図を効果的に活用することに関わって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。教科用図書「地図」は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境との関わりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、教科用図書「地図」を日常的に活用し、教科用図書「地図」への親しみをもたせ、課題解決のために教材として効果的に活用する知識や技能を育てるよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本図の箇所数 (世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図) ・資料図の箇所数 (社会的事象の様子や関係、自然環境との関わり、その他) | <ul style="list-style-type: none"> ・考察、構想(選択・判断)したことを、教科用図書「地図」を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を「地図」に表したりする表現力を育成するよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料図のテーマの数 ・巻末の統計資料の項目の数 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書「地図」を活用し、社会的事象について主体的に調べ分かつようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想(選択・判断)したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。 |

調査方法

種目名【 地図 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）地図帳の使い方の説明などが掲載されている箇所 ・ 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方などが掲載されている箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本図の箇所数、資料図の箇所数について調査を行う。 （例）世界の生活・文化について掲載されている箇所数 （例）各地域の資料図の項目数（農業分布・鉱産資源など） |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料図のテーマの数や巻末の統計資料の項目の数について調査を行う。 （例）「日本の自然環境」や「日本の災害と防災」などのテーマで扱われている資料図の項目数 |

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・ 理解を深める内容となっているか調査を行う。 |
|---|--|

調査結果 社会地図

| | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|---------------|--|---|--|--|-------------------|--------------------------|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 活地図の 用方の 方法を 取り上 げたり 読図・ 作図な どの方 法の数 | 見学調 査の方 法を取 り上げ ていく 進め方 や方 数の数 | 図地基本 図、図 の箇所 数（世 界州別 図、世 界地図 、日本 地域別 図、日 本 | り子資 、や料 その関 他係図 ）の箇 所数 （自然 環境と 社会的 事象の かわ 様 | 資料図 のテー マの数 | 巻末の 統計資 料の項 目の数 |
| 東京書籍 | ○ | | ○ | | ○ | |
| 帝国書院 | | ○ | | ○ | | ○ |

| 種目名 地図 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に地図帳の活用方法についての解説が掲載されており、地図による学習の必要性が感じられるよう工夫している。また、歴史的分野、公民的分野との関連がわかるように歴、公のマークを付して資料が掲載されている。 ・地図を深く読み取るためのヒントとなる地図帳活用コーナー「Bees eye」では、1枚の図を見て取り組む問い、2枚以上の図を見て取り組む問い、図をもとに自ら調べたり考えたりする問いの三種類のうち、いずれかまたはいくつかを示している。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・比較しながらそれぞれの地域の特色をとらえ、地理的な見方・考え方を活用することができるように同じタイトルの資料を複数の地域ページに掲載している。 ・「原子爆弾投下時の長崎市」や「広島市中心部」「日本の主な公害」等の資料を掲載し、歴史的分野、公民的分野との関わりをもたせ、社会科の学習内容を結び付けて考えられるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGSに関連した資料図にマークを付けることで、地球規模の問題や日本の環境問題について広い視野でとらえ、考察できるように工夫されている。 ・巻末の統計資料では、数値だけでなく日本と世界の主な地域の比較ができる地図を示すことなど、実感をもって理解して、多面的・多角的に考察できるよう工夫している。 | |

| | | |
|----------------|--|--|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の各州の衛星画像上に自然地形等が表示され、個々の地形を選択するとその詳細が表示される。 ・国土地理院や気象庁など、日本の統計に関する機関のホームページにリンクされていて、主体的に調べることができるようにしている。 | |
|----------------|--|--|

| 種目名 地図 | 発行者名 | 株式会社帝国書院 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭で地図帳の使い方について解説している。また平和学習や国際協調について考える資料を掲載するなど、歴史的分野・公民的分野の学習にも活用できるように工夫がされている。 ・「地図で発見！」が設定されており、社会科の学習内容について地図をもとに確認したり、資料と関連付けて考えたりすることを通して、知識の定着を図るようにしている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界を州に分け、それぞれ全体を俯瞰することのできる資料が掲載されている。地形だけでなく衣食住や文化に関係するイラストも併せて提示されているので、地形と人々との生活を結び付けて考えられる構成になっている。 ・「地図で考える持続可能な社会」では、「環境問題」や「食糧問題」「紛争」といったテーマにそって、生徒が課題意識をもって社会的事象について考えることができるようにしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の各州と日本とのつながりを示した資料図やグラフを州ごとに示し、学習上の課題を生徒が主体的に調べることができるようにしている。 ・巻末で「自然の統計」「世界の統計」「日本の統計」に分け、複数の資料を示している。「自然の統計」では、自然地形や主な都市の月平均気温や月降水量が記載され、資料と比較して考察できるように工夫されている。 | |

| | | |
|----------------|---|--|
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で視聴できる各州の現状や課題等の動画資料が掲載されている。 ・裏表紙の二次元コードを読み取ると、学習テーマごとに項目が見やすく配置されたサイトにつながり、授業者や生徒が調べたい内容をすぐに探すことができるようにしている。 | |
|----------------|---|--|

数 学

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

数 研 出 版

日 本 文 教 出 版

観点の内容

数学科 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|---|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数 ・学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算などの技能を学ぶ際には、その手続きの基礎に概念や原理・法則があることや、概念や原理・法則をうまく使って数学的な処理の仕方が考え出されることを理解できるように留意する。 ・問題発見・解決の過程において、数学を適切に活用するために、生きて働く数学的な知識に支えられた技能を習得できるように留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程を遂行することを通して養われるよう留意する。 ・目的に応じて的確な数学的な表現を選択したり、一つの対象の幾つかの数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりできるように留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数 ・生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を理想化したり抽象化したりして数学の舞台にのせて考察し、事象に潜む法則を見つけたり、観察や操作、実験などによって見いだした数や図形の性質を発展させたりする活動を通して、数学を学べるよう留意する。 ・数学が日常生活や社会生活において、また他教科の学習やその後の人生において必要不可欠なものであることを実感できるように留意する。 |

調査方法

種目名【 数学 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行う。 (例)「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所 ・学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数について調査を行う。 (例)「このように、代入によって1つの文字を消去する方法を代入法といいます。」 「角錐、円錐の底面積をS、高さをh、体積をVとすると、$V = \frac{1}{3} S h$」 等、特だして記載している箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行う。 (例)「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 (例)「姉が弟に追いつくのは家から何mのところかな」 「ほかにどんなことが読み取れるかな」 「～を使って、～だと予想しました。という形で説明しよう。」 等、吹き出しなどで課題を明確にしたり、見通しをもたせる内容が記載されていたりする箇所 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり説明したりする学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例)「～を説明しましょう。」「～図や式に表しましょう。」など、表現したり、説明したりする活動が記載されている箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数について調査を行う。 (例)「相似な図形をかくことで、2点間の距離を求めることができます」 「○○と△△の関係を一次関数とみることができます。」 等、問題やまとめ、吹き出しなどでよさについて記載されている箇所 ・生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例)「鉄道の運行の様子を表したダイヤグラムを読み取ってみよう」 「身の回りにおける放物線について調べよう」 等、日常生活に関わりのあることを問題に設定されているものや、コラム等で数学を活用している場面を紹介している箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 数学

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|----------------------------|-------------------------|-----------------------------------|------------------------------|---|----------------------------|------------------------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 知識量や図形について基礎的な例・問題・練習問題の箇所 | 学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所 | 思考力・判断力・表現力を身に付けさせる例・問題・問・練習問題の箇所 | 問題発見・解決する過程において、通し・取り扱っている箇所 | 具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用いた説明、自分の考えを表現する活動など | 各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしている箇所 | 生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容をとり上げてい |
| | | 東京書籍 | 1年生 | ○ | | | ○ | ○ |
| 2年生 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 3年生 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 大日本図書 | 1年生 | ○ | | | | ○ | | ○ |
| | 2年生 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 3年生 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 学校図書 | 1年生 | | ○ | ○ | | | | ○ |
| | 2年生 | | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 3年生 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 教育出版 | 1年生 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 2年生 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| | 3年生 | | ○ | | | ○ | | ○ |
| 啓林館 | 1年生 | | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 2年生 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | 3年生 | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 数研出版 | 1年生 | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | 2年生 | ○ | ○ | | | | | ○ |
| | 3年生 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 日本文教出版 | 1年生 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | 2年生 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | 3年生 | ○ | | | ○ | | ○ | |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

| | | |
|-------------------|---|----------|
| 種目名 数学 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめに「Q考えてみよう」という問いを設けてあるページでは、既習の知識から新しい知識を見だし、様々な場面で活用できる技能へと高められるように構成されている。 ・数と式領域に、1授業の境目に「クイックチェック」という適用問題を設けたり、節末に「基本の問題」を設けたりして、内容の理解を細かい単位で確認し、つまづきに早期に対応できるように構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての章に設けられている「深い学び」のページでは、思考力、判断力、表現力等の育成につながるように問題発見・解決の過程を意図した活動が示されている。 ・学習を振り返ったり、問題に取り組んだりする場面に「虫眼鏡マーク」が付けられており、大切にしたい数学的な見方や考え方が何か一見して分かるように工夫されている。 ・章末の「章の問題」には「活用の問題」というマークが付けられた問題があり、日常生活や社会の事象が取り上げられ、身に付けた知識及び技能を活用して問題を解決する過程で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・節末の「学びをふり返ろう」や章末の「ふり返りレポート」では、問題解決で働かせた見方・考え方等を振り返ることで、数学のよさを実感できるように構成されている。 ・「数学の自由研究」で、日常生活や他教科の学習と関連した課題学習に取り組んだり、「数学のまど」「数学×仕事」のページに、数学と実社会や職業とのつながりを伝える内容が掲載されたり、数学の有用性を実感できるように工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツを利用した学習ができる部分に、「Dマーク」が付けられており、「シミュレーション」「フラッシュカード」「動画」など、コンテンツの種類が分かるように示されている。 ・全学年の全ての「章の導入」と「深い学びのページ」に対応したワークシートがPDF形式で準備されており、生徒の端末にダウンロードし、書き込んだり、共有したりすることができる。 | |

| | | |
|-------------------|--|-----------|
| 種目名 数学 | 発行者名 | 大日本図書株式会社 |
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に「活動」「例」「例題」といったマークを付け、学習の流れを分かりやすく示しており、数学的活動を通して基本的な知識及び技能が確実に習得できるような流れが分かるように構成されている。 ・新しく学習した内容については、「たしかめ」「Q」「プラス・ワン」と段階的に適用問題に取り組むことができるように構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各章の導入場面では、数学的活動が設定されており、見いだした問題を基に数学的な見方や考え方を働かせて各章の学習に取り組むことができるように誘う構成になっている。 ・日常の場面で学んだことを利用する内容には、「問題を見いだそう」「解決のしかたを探ろう」「解決しよう」「深めよう」の流れを示し、問題発見・問題解決の方法や流れが一見して分かるよう工夫されている。 ・適用問題には、学習した内容を基にして判断する問いである「判断しよう」や、数学の言葉や図などを使って、まわりの人に考えを伝える問いである「伝えよう」があり、生徒が数学的表現を積極的に用いるように構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章末の「章をふり返ろう」の「学びのふり返り」において、学習内容を活用することのよさや、身のまわりで活用されている場面を振り返り、数学の有用性を実感できるように構成されている。 ・章末に「活用・探究」「社会にリンク」等、巻末に「もっと数学の世界へ」のページがあり、数学の歴史や、身近な事象と数学との関係等、豊富な資料を掲載し、数学と社会とのつながりが実感できるように構成されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・「数学の世界WEBプラス」で、全ての「例」「例題」について動画が視聴でき、個々の生徒の状況に応じて何度も繰り返し視聴できる。 ・CBTに対応した「WEBテスト」コンテンツがあり、映像や音声から得られた情報を基に、メモをとったり、計算式を書き込んだりすることができる。 | |

| 種目名 数学 | 発行者名 | 学校図書株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書いたような形式で例題の解答を示してある部分があり、その後の問題を解く際、生徒が自分のノートにどのように記入すればよいか分かるよう工夫されている。 ・すべての節の終わりには「確かめよう」という適用問題のページがあり、問題ごとに身に付けるべき力がどのようなものかが分かるような一文を付すとともに、学習した内容がどのページに書かれているかも示されており、生徒自らが定着のために活用できるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元のはじめにある「Question」というマークの部分には、数学的活動を通して学びを深められるような問いと、働かせたい見方や考え方のヒントとなる文が側注として示されており、生徒が問題解決に向けて見通しをもち、筋道を立てて論理的に考察できるように構成されている。 ・日常の場面で学んだことを利用する内容では、問題ごとに「問題を見つける」「予想する」「解決する」「新たな問題を見つける」の流れにそって数学的活動が示されており、問題発見から段階的に問題を解決できるよう構成されている。 ・「説明する力をつけよう」が付いている問題では、生徒同士の話合いを通して、他者の考えにふれ、協働的な学習が行えるよう構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Tea Break」や章末の「数学へのいざない」「深めよう」のページ、巻末の協働学習のページ「さらなる数学へ」では、日常生活に関連した課題やコラムを取り上げ、生徒が興味・関心を高め、主体的に学ぶ姿勢を育成できるように工夫されている。 ・章末には、学習の振り返りができるよう「～を学んで」と題したコーナーが設けられており、「できるようになったこと」をチェックしたり、「さらに学んでみたいこと」を記入したりすることができる。 | |

| | | |
|------------|--|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・10種類の多様なデジタルコンテンツがある。「パトロール隊」「チャレンジ」「解答」「ふりかえり」といった生徒一人ひとりの特性や学習進度・学習到達度等に応じて活用できるデジタルコンテンツが豊富である。 ・どの学年にも、カメラで撮影した表紙の様子が動いて見えるコンテンツがあったり、プログラミングを体験できるサイトへのリンクが示されたりしている。 | |
|------------|--|--|

| 種目名 数学 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「例（例題）」と「問（練習問題）」の間に、「例（例題）」に類似した「たしかめ」という学習内容が設けられており、段階を追って理解が深まるように構成されている。 ・巻末には、「学びのマップ」が用意され、学習が以前に学んだこととどのようにつながっているか関連が分かるようになっている。分からない既習内容があるときや関連する内容を調べたいときに、いつでも参照することができる。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章末に「学んだことを活用しよう」、巻末に「学んだことを活用しよう+」がそれぞれ設けられており、知識及び技能を活用する問題が掲載されている。 ・数学的な見方や考え方を働かせて考える場面に羅針盤マークが付けられており、意識して問題を解いたり、話し合い活動に取り組んだりすることができるよう工夫されている。 ・主に、知識・技能を活用する場面で「学びのプロセス」のページを設け、問題発見・解決の過程が示されており、各問いがプロセスのどの部分にあたるか確認できるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章のはじめに実社会や日常生活等の数学に関わる話題を取り上げ、取り上げた話題を章の学習内容と関連付けることで、数学の有用性を実感したり、学習による自己の成長を感じたりできるように工夫されている。 ・「数学しごと人」のページでは、社会で活躍している方へのインタビューの内容、コラム「数学の広場」では、歴史、文化と関わる数学の内容が掲載されており、数学が実社会で役立っていることや、数学を学ぶ意義が実感できるように構成されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」と題した、「操作」「動画」「資料」「統計ツール」の4種類に分類されたデジタルコンテンツが用意されており、生徒の興味や関心を引き出し、理解を深められるようになっている。 ・章末の「学習のまとめ」や「章の問題」では、デジタルコンテンツにより、解決の手立てや解答を確認することができ、生徒の習熟度に応じて理解を深められるように工夫されている。 | |

| 種目名 数学 | 発行者名 | 株式会社新興出版社啓林館 |
|-------------------|--|--------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「例」「例題」「問」「練習問題」と順を追って学ぶことで、知識及び技能が確実に身に付くように構成されている。 ・章末問題の「学びをたしかめよう」では、問題ごとに身に付けるべき力がどのようなものかが分かるような一文を付すとともに、学習した内容がどのページに書かれているかも示されており、生徒自らが定着のために活用できるよう工夫されている。また、巻末の「力をつけよう」の問題で、知識及び技能が身に付いているかについて、機会をとらえて確認できるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・章末問題の「学びを身につけよう」や巻末の「数学広場」では、知識及び技能を活用する問題を数多く取り上げ、思考力、判断力、表現力等を育むことができるように構成されている。 ・数学的な見方・考え方を確かめ豊なものにするために、「同じように考える」や「範囲をひろげる」のような標識を本文中に置き、学びを広げる場面や問題解決の場面で役に立つ「たいせつな考え方」を明確にしている。 ・学習内容を利用する場面では、問題発見・解決の流れを3段階で示すとともに、「説明しよう」「話しあおう」のマークの付いた問題では、自分の考えを整理して記述したり、他者と互いの考えを説明し伝え合ったりする活動を通して、数学的に表現する力が身に付くように構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「章末問題」の最後には「○章のあしあと」が設けられ、その章で分かったことやできるようになったことを自己評価したり、さらに学んでみたいことにも目を向けたりして、生徒が自らの学びを確認できるように構成されている。 ・章のはじめの導入や「数学ライブラリー」のコーナー、巻末の「数学広場」の中の「学びをいかそう」のページでは、数学と日常との関わりを実感できる場面等を扱うことで、生徒が興味・関心をもって学習に向かったり、学習することの必要性を感じたりできるように工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・10種類の多様なデジタルコンテンツがあり、「問題解説」「例・例題の解説動画」「補充問題」といった、生徒の学習理解度に応じて学習を進めることができるデジタルコンテンツが豊富である。 ・「ふりかえりCBT」のデジタルコンテンツでは、動画を見ながら問題に答えたり、実際に数を入力したりして各章の学習内容をCBT形式で確認できるようになっている。 | |

| 種目名 数学 | 発行者名 | 数研出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各章の学習に入る前の「ふりかえり」のページでは、新しい学習がスムーズに進むよう、その章に関する既習内容を確認できるように構成されている。 学習の初めに「Q」「TRY」を配置し、数学的活動を通して新しい内容を学んだ後、「例」「問」で知識及び技能を習得できるように構成されている。また、巻末には「中学校～年（まで・間）のまとめ」として、それまでに学習した性質や公式が系統的にまとめられている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 各章末の「学んだことを活用しよう」のページでは、章で学んだ内容について視点を変えて考えたり、身のまわりの問題の解決に取り組んだりすることで、思考力、判断力、表現力等が培われるように構成されている。 教科書全体を通して、生徒、先生のキャラクターの対話は、数学的な見方・考え方を具体的な形で示されており、その内容から学習者が数学的な見方や考え方の視点を得られるように構成されている。 「説明しよう」「やってみよう」「調べよう」「考えよう」のコーナーでは、その章に関する話題を通して、数学的に表現する場面を設定し、言語活動が充実するよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末の「数学旅行」では、数学に関係する発明品やその考案者、SDGs、自然現象などについて紹介するページがあり、数学の楽しさや奥深さを感じることができるようになっている。 章の導入課題には、日常生活に関わりのある場面が多く取り上げられ、生徒の興味や関心を引きつけ、主体的に学習に取り組むことができるように構成されている。また、各学年とも裏表紙の見返しには、「学びの自己評価」というページがあり、自らの取り組みを客観的に評価し、改善していく意識が高まるようになっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツを利用した学習ができる箇所には、「補充」「イメージ」「資料」「考察」「探究」の5種類に分類されたマークが示されており、そのページの下部に二次元コードが分かりやすく配置されている。 「補充」では、3段階の難易度に分かれた練習問題を繰り返して解くことができるようになっており、知識及び技能が確実に身に付けられるように構成されている。 | |

| 種目名 数学 | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|--|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい章の学習に入る前に「次の章を学ぶ前に」のページがあり、既習事項について、要点と確認問題が設けられており、新しい学習にスムーズにつながるように構成されている。 ・「Q」「めあて」「例」「問」と段階的に学習を進めることで、基本的な知識及び技能が確実に身に付くように構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・小節「学び合おう」では、「身近なことから」を「数学的な問題にしよう」からはじまり、「見通しをもとう」「考えよう」「話し合おう」「ふり返ろう」「深めよう」というように、問題解決型の学習展開が示されている。あわせて、巻末には「学び合おう」に対応した「対話シート」が用意されている。 ・数学的な見方や考え方を働かせたい箇所には、「大切な見方・考え方」の欄があり、その場面で働かせたい数学的な見方や考え方が具体的に示されている。 ・章末問題の「とりくんでみよう」等において、「説明できるかな？」の吹き出しの付いた問題が設けられており、理由や方法・手順等について数学的な表現を用いて説明する力を養う問題が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力を育てよう」のページでは、身近な事柄に関連した問題が取り上げられ、問題に取り組む学習者の姿を通して、指導者が主体的に学習に取り組む態度を評価できるように構成されている。 ・「数学のたんけん」のコーナーや、巻末の「SDGsと数学」「数学を仕事に生かす」「数学研究室」「プログラムと数学」のページでは、数学が活用されている様々な場面が掲載されており、興味・関心をもって学習に向かうことができるように工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性や学習進度・学習到達度に応じて活用できる「見る」「身につける」「調べる」「ためす」「図形のまとめ」「統計ツール」の6種類の多様なデジタルコンテンツが用意されている。 ・グラフや図形を変化させながら操作できる「ためす」や、理解を支援するための動画を視聴できる「見る」等、1人1台端末を用いて、学習者が習熟度に応じて理解を深められるように工夫されている。 | |

理 科

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

観点の内容

理科 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数 ・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数 ・単元ごとや章末の練習問題等及び学習内容を整理する工夫の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などを行うことを通して、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。その際、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めて体系化していくよう留意する。 ・観察、実験などに関する基本的な技能については、探究の過程を通して身に付けるよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数 ・結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数 ・探究の過程を振り返る活動に関する箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学的に探究する力を育成するに当たっては、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うよう留意する。 ・第1学年では自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす活動、第2学年では解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年では探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図るよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数 ・自然環境の調査、自由研究や課題研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に探究する活動を通して、自然の美しさ、精妙さ、偉大さを改めて感得し、自然についての理解を深め、新たな問題を見いだそうとするなど、生徒の感性や知的好奇心などが育まれるよう留意する。 ・自然環境の保全や科学技術の利用に関する問題などでは、人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような態度を身に付けるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 理科 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数について調査を行う。 (例) 顕微鏡の使い方、電流計等の使い方、メスシリンダーの使い方に関する箇所 (例) 安全めがねをかける、換気を十分に行うなどの記述箇所 ・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数について調査を行う。 (例) 植物の分類、オームの法則、月の形の変化などの活動の箇所数 ・単元ごとや章末の練習問題及び学習内容を整理する工夫等の箇所数について調査を行う。 (例) 単元末、章末の練習問題、「考えてみよう」の箇所 (例) 単元末、章末の学習のまとめの箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 予想や仮説、実験の計画を考えたり、話し合ったりする場面、課題についての箇所 ・結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 結果からどのようなことが言えるのか、話し合ったりする箇所 ・探究の過程を振り返る活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 実験の結果を基に、計画を振り返ったり、話し合ったりする箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数について調査を行う。 (例) 月探査機 SLIM、リチウム電池、白夜、緊急地震速報と減災などの内容を扱う箇所 (例) 物体の質量・速さと運動エネルギー、電池・電気分解のしくみなどの内容を扱う箇所 ・自然環境の調査、課題研究や自由研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数 (例) 課題研究テーマ例、時間があれば取り組みたい観察・実験を取り上げている箇所 |

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |
|---|--|

調査結果 理科

| | | 観点A | | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|----------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|------------------------------|---------------------|------------------|------------------------------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 観察、実験の方法、器具や機器などに関する記述の箇所数 | 観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数 | 単元ごとや章末の練習問題等及び学習内容を整理する工夫の箇所数 | 問題を思いだして課題を設定し、予想や仮説に関する箇所数 | 結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数 | 探究の過程を振り返る活動に関する箇所数 | 社会、科学史に関する内容の箇所数 | 自然環境の調査、自由研究や課題の意欲を高める工夫の箇所数 |
| | | 東京書籍 | 1年生 | | | | ○ | ○ | ○ |
| 2年生 | | | | | | ○ | ○ | | ○ |
| 3年生 | | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 大日本出版 | 1年生 | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 2年生 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | 3年生 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| 学校図書 | 1年生 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | 2年生 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | 3年生 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 教育出版 | 1年生 | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| | 2年生 | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| | 3年生 | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 啓林館 | 1年生 | ○ | | | | | ○ | | ○ |
| | 2年生 | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | 3年生 | | | ○ | | | ○ | | ○ |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 理科 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の手順を掲載しているページは、各種のマークや「注意」によって安全への配慮ができるよう工夫されている。 ・「結果の見方」に、結果をまとめる視点や考察につながる視点が示しており、生徒が結果を整理することができるように構成されている。 ・章末の「学んだことをチェックしよう」や単元末の「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」によって、段階的に学習できるよう構成されている。また、つまずきやすい内容には「例題」「練習」が設定されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツスタート！」等では、身近な題材を基にした問いかけがあり、生徒が気付いたことから課題設定ができるよう工夫されている。また、探究の過程の「問題発見」「仮説」「構想」では、問題を見いだしたり仮説を立てたり、解決方法を立案したりできるように構成されている。 ・「分析解釈」「検討改善」では、結果を基に規則性や関係性を見いだしたり、結果から解説や構想を検討・改善したり、科学的に考察して判断したりできるように視点が示されている。 ・課題に対する結論をまとめる「！」では、学んだことを振り返りながら自分の考えを整理して記述できるように、使用するキーワードが示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「社会につながる科学」等のコラムでは、科学がさまざまな職業や日常生活で役に立っていることが取り上げられ、科学の有用性を実感できるように示されている。 ・巻頭の「科学の本だな」では、学習内容に関連のある本を掲載しており、興味・関心に応じて学習を深められるように工夫されている。 ・各単元や章にある「Before & After」では、生徒自身が学習の前後で自己の考えの変容を客観的にとらえ、成長を感じ取れるよう工夫されている。 | |

| | |
|------------|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れにそって二次元コードが配置しており、探究的な学習のサポートとして、学びを広げたり深めたりする内容のコンテンツの種類や数が多く掲載されている。 ・「思考ツール」や「シミュレーション」では、生徒自身が実験や観察の結果を整理したり考えを深められたりできるように工夫されている。 |
|------------|--|

| 種目名 理科 | 発行者名 | 大日本図書株式会社 |
|-------------------|--|-----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験の手順を掲載しているページは、「注意」マークによって安全への配慮ができるよう工夫されている。また、「やってみよう」では、身近な物を使用した観察や実験が多く紹介されている。 ・ 「結果の整理」に結果をまとめる視点が示しており、生徒が結果を整理することができるように構成されている。 ・ 章ごとに「章末問題」、単元ごとに「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」があり、段階的に学習できるように構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題をみつけよう」では、生徒にとって身近な話題から問題を見だし、課題を把握できるように構成されている。また、観察や実験において「着目点」が示されており、見通しをもって取り組めるように工夫されている。 ・ 「結果から考えよう」では、結果の整理の仕方や考察の視点が示されており、参考にしながら考察できるよう工夫されている。 ・ 単元末の「探究活動」の「振り返ろう」では、探究の過程を振り返り、新しい課題につなげられるよう構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ コラム「Science Press」「くらしの中の理科」「professional」では、学習内容が実生活および実社会でどのように活用されているかが紹介されており、学びを広げる工夫がされている。 ・ 「つながる」では、教科横断的な学習ができるように、学習内容に関連する他教科の学習内容が履修学年とともに示されている。 ・ 単元末の「探究活動」のページが掲載されており、学習したことを活用する活動の中で、発展的に学びを広げられるよう工夫がされている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次元コードから観察や実験で使用する器具の基本操作を、動画で確認できるよう工夫されている。また、事象や現象について、教科書の内容を補完する動画で理解を深めることができるよう構成されている。 ・ 巻末では、自由研究の進め方等のPDFをダウンロードできたり、博物館等のWebページに遷移したりできるよう工夫されている。 | |

| 種目名 理科 | 発行者名 | 学校図書株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験の手順が掲載されているページには、具体的な注意点の解説があり、安全への配慮ができるよう工夫されている。 ・ 「ポイント」により、生徒が結果を整理することができるように構成されている。加えて、探究を深めるコラム「理路整然」にも、安全に正確な観察や実験を行うための知識や、結果をまとめるための視点が示されている。 ・ 単元末に「学習のまとめ」があり、生徒が用語を整理したり基本問題を解いたりできるよう、構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究の過程の「仮説」や「計画」では、吹き出しに多様な考えが示されており、生徒が観察や実験の方法を立案できるよう工夫されている。 ・ 「考察」では、「ポイント」や「理路整然」に結果を分析したり解釈したりするための視点が示されており、自分で考えたことを表現できるよう工夫されている。 ・ 巻頭の「理路整然 どうする、探究の進め方」において、「ふり返り」の視点が詳細に示されており、次の探究につながる「気づき」や「課題」についても説明されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末資料には、学習内容から身近な体験を科学的にとらえ直し、原理や法則の理解を深められるような資料が多数掲載されている。 ・ 「理路整然」には、科学的な見方・考え方が生活の中で役立つ場面や身の回りで科学技術が使われている事例や科学の歴史が紹介されている。 ・ 単元の初めにある「学びのあしあと」では、学習の前後に自分の考えを記録し、単元の学習を通じた成長を生徒自身が実感できるよう構成されている。 | |
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙面の上部の二次元コードを読み取ると、ウェブページ上に教科書の紙面が表示され、「総ルビ 分かち書き」「6か国語」等のボタンで生徒自身が読みやすい表記に変更することができるように設定されている。 ・ 「理科マス」というチャットボットでは、生徒の質問に対応する機能があり、生徒が自ら学習を進めていくことができるように工夫されている。 | |

| 種目名 理科 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全に観察や実験を行うために、「禁止」「注意」「教室換気」「保護眼鏡」「廃棄処理」がマークで示され、特に禁止事項については具体的に説明されており、安全に配慮できるよう工夫されている。 ・実験の結果の記録を、整理できるように表が記載されている。 ・章末に「要点をチェック」、単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」、巻末に「学年末総合問題」の5段階のステップで構成されており、段階的に学習できるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「思い出そう」と「疑問を見つける」では、既習の内容や気づきを基に、生徒が課題を把握できるように工夫されている。また、吹き出しに多様な意見が示され、探究を深めることができるよう構成されている。 ・「考察」では、分析したり解釈したりできるように視点が示されている。 ・「探究を振り返ろう」では、学年に合わせて振り返る視点が段階的に示され、3年生では探究の過程全体を振り返ることができるよう構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学読み物「ハローサイエンス」では、理科で学習する原理や規則性などが日常生活や社会でどのように使われているかが紹介されている。 ・最先端の科学を紹介する「広がる科学の世界」等で、高等学校の学習内容を分かりやすく示しており、学習意欲を高め、発展的に学べるよう工夫されている。 ・各章の最初と最後にある「学習前の私」「学習後の私」で、日常生活と関連付けながら、生徒自身の科学的な概念の変容を客観的に認識させ、自己の成長を感じ取れるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての二次元コードが紙面の下部に配置されており、中央のマークでコンテンツが分類されている。 ・検索により生物や雲の種類等を調べることができる「Webずかん」や、空間的な見方が補助できる「3Dモデル」や「360°動画」が掲載されている。 | |

| 種目名 理科 | 発行者名 | 株式会社新興出版社啓林館 |
|-------------------|---|--------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全に観察や実験を行うために、「実験（観察）のスキル」や「注意・安全マーク」によって、必要な技能の解説や注意点が分かりやすく示されている。 ・観察や実験の結果を生徒自身が表や文章に整理できるよう、結果をまとめる視点が示されている。 ・「例題」や各単元末の「学習のまとめ」、各章末の「Review ふり返ろう」の①では、その章で学習した用語の確認等ができるように工夫されている。また、単元末の「力だめし」では、活用する力が身に付くよう学習内容に関連した会話文形式の問題等で構成されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元に設定された探Q実験・実習に対応したワークシート「探Qシート」が巻末に付属しており、「仮説」において、自分の考えを書いてから話し合い、他者の考えも参考にして、根拠のある仮説を立てられるように構成されている。 ・「考えてみよう」や「考察」の「ポイント」、考察したことを表現する「発表してみよう」では、生徒自身が考え表現できるようそれぞれに具体的な視点が示されている。 ・観察や実験の「探究のふり返り」では、振り返る視点を示し、探究の過程について振りかえることができるよう構成されている。加えて、各章末の「Review ふり返ろう」の②でも、章の重要な概念について文章で表現できるように構成されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・理科を学ぶ有用性が実感できるよう「お仕事ラボ」「深めるラボ」「部活ラボ」等のコラムが多く掲載されている。 ・学習の区切りごとに配置してある「Action 活用してみよう」や単元の最後にある「みんなで探Qクラブ」では、学んだことを活用しながら、新たな課題を解決し、学びを深めることができるように工夫がされている。 ・巻頭の「ガイダンスページ」で、科学的に探究することの意義等が示されている。また、学習を進めると導入のページの現象のしくみが分かるように構成されており、自然の美しさ・精妙さを感じ得るよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れに沿って二次元コードが配置されており、コンテンツの数が多く、各章のはじめにある「はてなスイッチ」では、各章の表紙の動画につながり、生徒が自ら問題を見つけることができるよう工夫されている。 ・「発表スライド」では、学んだことを編集できる雛型があり、自分で操作して考えを整理したり深めたりするコンテンツが掲載されている。 | |

音樂（一般・器樂合奏）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

観点の内容

音楽科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得に関する記述の箇所数 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かすことができるようにする。 ・音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して自己との関わりの中で理解できるようにする。 ・一定の手順や段階を追って身に付けることができるようにするのみではなく、課題などに応じて主体的に活用できる技能として身に付けることができるようにする。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える活動が設定されている箇所数 ・楽譜の理解を深めるための工夫が見られる記述の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるようにする。 ・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付ける。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数 ・知覚・感受したことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実に関わる学習活動が設定されている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現に対する思いや意図をもって音楽で表したり、曲想と音楽の構造や背景などに関わらせて味わって聴いたりすることによって、より深まった音楽活動の楽しさを体験できるようにする。 ・音や音楽、言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりする楽しさや、様々な音楽に親しむことができるよう、指導計画を工夫する。 |

調査方法

種目名【 音楽 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得に関する記述の箇所数について調査を行う。 (例) イメージ写真や説明、挿絵等の箇所 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数について調査を行う。 (例) イメージ写真や説明、活動のイメージ図、挿絵等の箇所 |
| <p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 「音楽の特徴について確かめ、どのように歌いたいかまとめましょう」「音楽を聴いて、気付いたことをまとめましょう」などの記述がある箇所 ・楽譜の理解を深めるための工夫が見られる記述の箇所数について調査を行う。 (例) 音楽用語や記号についての説明や資料の箇所 |
| <p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数について調査を行う。 (例) 声楽・合唱・オーケストラ・和楽器などの教材の箇所 ・知覚・感受したことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実に関わる学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 「聴いて感じたことを話し合ひましょう」などの記述がある箇所 |
| <p>デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 音楽

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|-------|--------|-----------------|--------------------|--------------|---------------------------|-----------------|---------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 知識の習得に関する記述の箇所数 | 表現の技能を高めるための記述の箇所数 | 設定された活動が | 音楽の理解を深めるための工夫が見られる記述の箇所数 | いろいろな演奏形態による教材数 | 活動が設定されている箇所数 |
| | 1年生 | ○ | | | ○ | ○ | |
| | 23年上 | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 23年下 | | | ○ | ○ | | ○ |
| 教育芸術社 | 1年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 23年上 | | ○ | | ○ | | ○ |
| | 23年下 | ○ | ○ | | | ○ | |

調査結果 音楽(器)

| | 観点A | | 観点B | | 観点C | | | | |
|---------------|-----------------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------|-----------------|-----------------|---------------|--------------------------------|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | | | | |
| 調査研究事項 発行者 | 知識の習得に関する記述の箇所数 | 表現の技能を高めるための記述の箇所数 | 設定された関わりについて考える活動が | とて、音楽を形づくっている要素について | 見られる理解の記述の箇所数 | 楽譜の理解を深めるための工夫が | いろいろな演奏形態による教材数 | 活動が設定されている箇所数 | で、伝えたり受けたこと、見たりしたことを様々な方法で学習する |
| 教育出版 | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| 教育芸術社 | | ○ | | ○ | | | ○ | | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 音楽（一般・器楽） | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を精選し、イラストや写真を大きくすることで、身に付けるべき知識や技能に焦点が当たるように紙面を工夫している。 ・掲載されている写真やイラストが、学習すべき内容のポイントを押しえたものになっており、知識を習得したり、技能を高めたりするために適している。 （一般）・学習が関連付けられるように教材が配列されていることを生徒自身が自覚できるように、巻頭に「学習MAP」を示している。 （器楽）・演奏者の視点から撮った写真が掲載されており、生徒が演奏する際に具体的なイメージをもてるように配慮されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材ごとに段階的に学習を進めることができるように活動が設定されており、知覚したことと感受したことの関わりについて考えを深めることができるよう工夫されている。 ・複数の教材や楽器を比べたり関連付けたりしながら、学習目標に迫ることができるように構成されている。 （一般）・「Active」という欄に、知覚・感受したことを整理するための問いかけが示されていて、楽曲の理解を深めることができるようになっている。 （器楽）・楽譜に示されている記号の奏法が具体的に分かるよう、欄外に「トリル」や「トレモロ」などの部分だけを取り上げて別に示すなど楽譜の理解を深める工夫をしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じた難易度の楽曲が選曲されており、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫されている。 ・取り上げられている楽曲の数が多く、同じジャンルの中でも複数の楽曲を比べながら学習することができるため、生徒が主体的に取り組めるようになっている。 （一般）・「Active」という活動やキャラクターのセリフを通じて、生徒が個人でまとめたことや考えたことを交流する言語活動を示す工夫をしている。 （器楽）・世界の多様な同族楽器を比較して聴き、共通性や固有性を感じ取るような学習が設定され、音楽文化に親しめるような工夫がある。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・プロの演奏者による模範演奏の動画が、演奏の技能を高めるためにある。 ・演奏者や指揮者の視点から動画が撮影されており生徒が実際の場面をイメージしやすく、技能の高まりにつながる内容となっている。 | |

| | | |
|-------------------|--|-----------|
| 種目名 音楽（一般・器楽） | 発行者名 | 株式会社教育芸術社 |
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「学習内容」のページでは、各教材で身に付けるべき資質・能力がどのようなものかが視覚的に分かるようになっている。 ・楽器の演奏や歌唱等の説明は図や写真、楽譜のいくつかをあわせて示し文字だけでなく具体的なイメージをもって表現の技能を高めることができるよう工夫されている。 <p>（一般）・巻末には、「音楽を形づくっている要素」をイラストや楽譜を用いてまとめているページがあり、知識を整理して学び、技能に生かせるように工夫している。</p> <p>（器楽）・技能の高まりにつながる情報や、様々な種類の同族楽器が紹介されている。</p> | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材には、重点となる「音楽を形づくっている要素」が、欄外にマークで示されており、生徒が意識をもって表現や鑑賞に取り組めるように工夫されている。 ・課題解決のための学習である「学びのコンパス」では、知覚・感受したことを整理したり、他者と伝えあったりすることで、自分の考えを広げたり深めたりした上で、表現に取り組む工夫がされている。 <p>（一般）・巻末に、1年間の学びを振り返ることができるまとめのページがあり、生徒が既習内容を想起したり、学習を更に深めたりできるよう工夫されている。</p> <p>（器楽）・教材ごとに、学習目標や活動内容が具体的に示されており、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができるようになっている。</p> | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に沿ったものや唱歌、様々な場で親しまれ歌い継がれている楽曲などが取り上げられている。 ・様々な演奏形態の楽曲が豊富に掲載されており、自分の興味・関心が高いものを選び、主体的に取り組むことができるように構成されている。 <p>（一般）・「学びのコンパス」には、話し合い活動が設定されており、自分の考えを広げたり深めたりできるようになっている。</p> <p>（器楽）・教材として扱っている楽器について、学習の初めにそれぞれプロの演奏家の演奏を聴くことができるように構成されており、聴くことで生徒の興味・関心を高めることができるよう構成が工夫されている。</p> | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・大半のページに、二次元コードが掲載されており、歌唱教材の旋律を音声で確かめることができる。また、曲の速度を変更することも可能である。 ・創作ツールを使って作曲できるようになっており、創作した曲を再生できる等の工夫がされている。 | |

美 術

開 隆 堂

光 村 図 書

日本文教出版

観点の内容

美術科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数 ・技法等などの手順を紹介した箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などから全体のイメージや作風などで捉えることなどについて実感を伴いながら理解できるように留意する。 ・一定の手順に沿って材料や用具の使い方などの個別の技能を身に付けるだけでなく、生徒自らが発想や構想したことを基に、自分の意図をよりよく表現するための創造的に表す技能を身に付けられるよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実に関わる教材や学習活動が設定されている箇所数 ・鑑賞の活動に関わる題材の数 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己との対話を深めることや、〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりするなどの言語活動の充実に留意する。 ・鑑賞の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保することに留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数 ・生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術科の授業の内容を学校内で閉じることなく、生活や社会とつなげて関わりをもたせ、気付かせる工夫をしながら、主体的に生活や社会の中で美術を生かし、創造していく態度が養えるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 美術 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数について調査を行う。 (例) 「柔らかい感じが出るように赤い花びらを塗る」、「なめらかな感じが出るように木を削る」など表したい感じを意識したり、制作した作品を基に、形や色彩が感情にもたらす効果を踏まえて表現の意図や工夫について話し合ったりしている箇所 一題材の中に、複数の学習活動がある場合は、それぞれで一題材とする ・技法等の手順を紹介した箇所数について調査を行う。 (例) 図や写真等で道具の使い方や技法について紹介している箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実に関わる教材や学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 作品に対する思いや考えを話し合ったり、批評し合ったりしている箇所 ・鑑賞の活動に関わる題材の数について調査を行う。 (例) 作品のよさや美しさを味わい、作者の思いや意図を感じ取る活動等、各発行者が、鑑賞に関わる内容として扱っている箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数について調査を行う。 (例) 学校生活で美術が生かされているような箇所や、工芸作品、日用品、工業製品、建築、標識、伝統芸能などについて扱っている箇所 ・生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数について調査を行う。 (例) 生徒が制作したり、作品について話し合ったりしている場面の箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 美術

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | | |
|--------|--------|----------------|---|----------------|------------------|---------------|--------|-----------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | | |
| 発行者 | 調査研究事項 | す特徴なについで扱った箇所数 | 要素に着目して着目しての働きを捉えたり、全体としてそれらの造形の形や色彩、材料や光などの造形の | 技法等の手順を紹介した箇所数 | 習言語活動の充実に関する教材や学 | 鑑賞の活動に関わる題材の数 | 扱った箇所数 | 生徒が表現や鑑賞の学習をしてい |
| | 1年生 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 開隆堂 | 2・3年生 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 光村図書出版 | 1年生 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 2・3年生 | | | ○ | | ○ | | ○ |
| 日本文教出版 | 1年生 | ○ | | | | ○ | ○ | |
| | 2・3年生 | | | ○ | | ○ | ○ | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| | | |
|-------------------|--|-----------|
| 種目名 美術 | 発行者名 | 開隆堂出版株式会社 |
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品の図版を大きく掲載することで、生徒が細部に着目し、造形的な特徴に気付くことができるようになっている。また、作品のそばに、表現の意図や工夫についての解説が書かれていて、解説を読んで改めて作品を見ることで、知識が定着するよう工夫されている。 ・表現の題材には、形や色彩等について述べた「作者のことば」が書かれており、形や色彩等と作品を結び付けて理解することができるよう工夫されている。 ・「美術の用語」の欄で、それぞれの用語について、形や色彩、技法等に触れながら解説されており、学習に必要な知識を造形要素と結び付けながら理解することができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現の題材は大半が4ページで構成されている。多くがはじめに作品鑑賞、次に主題を生み出す発想や構想、その後生徒の作品を参考に知識や技能を生かした制作活動の順で、表現と鑑賞の指導の関連を図りながら学習を進める構成になっている。 ・発想や構想の場面や比較鑑賞の場面等で、生徒が互いに考えたことや感じたことについて話し合い、考えを深めることができる活動が設定されている。 ・マインドマップやアイデアスケッチ等を活用して、言葉で整理したことを表現に生かす学習活動の例が提示されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「学びの資料」や題材の終末で、SDGsに関わる作品や取組が紹介されており、社会と美術との関わりについて考えを深めることができるようになっている。 ・美術科で1人1台端末を効果的に活用できるよう、作品を構想するために写真を撮ったり、模様をデザインしたりする具体的な場面を示している。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアシートや鑑賞シート、振り返りシートを必要に応じてダウンロードすることができる。 ・用具や技法の解説、鑑賞に役立つ資料や動画が、題材に応じて活用できる。 | |

| 種目名 美術 | 発行者名 | 光村図書出版株式会社 |
|-------------------|--|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3学年にわたって使用できる別冊の「資料」があり、形や色彩、材料等の造形要素の働きや、技法や材料の使い方といった知識が1冊にまとめられている。 ・ 「POINT」という枠囲みとキャラクターの吹き出しの中に、形や色彩、材料等、鑑賞するときに注目すべきポイントを示している。 ・ 「作者の言葉」には、作者の意図や工夫、形や色彩がもつ性質やそれらが感情にもたらす効果等について記述されており、生徒が表現の活動で工夫する際のヒントが示されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の制作の様子を紹介する「みんなの工夫」のページでは、主題を生み出す発想や構想の場面、表現の工夫をしている場面で、それぞれどのようなことを考えたかがわかるように、吹き出しにセリフが書かれている。生徒がそれらを参考にしながら発想や構想を膨らませることができる構成になっている。 ・ 多様な考え方や感じ方に触れられる工夫として、作品の構想を練るための話し合いが示されている。 ・ 日本の絵画を紹介する資料が冊子としてはさみ込まれており、日本の文化や表現の特徴について考える学習を充実させるために活用できる。また、他のページとは紙質を変えることで、作品に対する具体的なイメージをもつことができるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科とのつながりがコラムで紹介されていたり、「道徳科とのつながり」として関連する内容項目が示されたりしている。 ・ 協働的な学びを促す工夫として、共同制作や鑑賞の学習活動として話し合う場面が掲載されている。 ・ 美術のもつ力や働きについて様々な角度から考える学習が設定されており、「個性を認める力」として、アール・ブリュットが紹介されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなの工夫」のページに「作者のインタビュー」が収録されており、作品の制作の過程や工夫について述べられている。 ・ 作家の作品の鑑賞のページでは、「書き込みツール」が用意されており、分析したこと等を書き込みながら鑑賞することができる。 | |

| 種目名 美術 | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「題材の説明」「造形的な視点」「作者の言葉」の欄で、作品における形や色彩の働きやそれらが感情にもたらす効果等について説明されており、学習を進める上で必要な視点を明確にもてるよう工夫されている。 ・表現の題材の「表現のヒント」の欄で、参考作品で用いられている技法について図や写真等を示して説明がされており、生徒が表現方法を工夫する際の参考にできるようになっている。 ・1題材の学習を見開き2ページにまとめ、学習内容が一見して理解できるよう構成されており、作家の作品と生徒の作品が主題や材料ごとに整理されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての題材の導入に「鑑賞の入り口」という欄を設け、鑑賞の視点を示している。また、鑑賞で学んだことを表現で生かせる構成となっている。 ・鑑賞作品を、原寸大にしたり複数並べたり掲載方法を工夫している。特に、屏風絵は、実物をイメージできるよう折り込みページにされており、鑑賞の学習に活用できるよう工夫されている。 ・生徒が制作する時に描いたアイデアスケッチやワークシートが掲載されており、発想や構想する際の参考にできるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品を生活の中で使っている場面や、現代に生きる日本の伝統文化について紹介することで、美術と生活との関わりについて考えられるようになっている。 ・共同制作やICTを活用した学習場面の写真を通じて、具体的な学習の見通しがもてるよう工夫されている。 ・アール・ブリュットについて、近江八幡市にある「ボーダレス・アート・ミュージアムNO-MA」が紹介されており、身近な地域の美術文化について考えるきっかけを与えている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方・考え方を働かせるよう生徒に投げかける動画「学びのはじめに」という二次元コードが用意されている。 ・学習に合わせて活用できる様々なシンキングツールや、作品や建築を360度どの位置からも見ることが出来るバーチャルコンテンツが用意されている。 | |

保健体育

東京書籍

大日本図書

大修館書店

G a k k e n

観点の内容

保健体育科 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|---|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）や「する・みる・支える・知る」について取り扱っている箇所数 ・健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数 ・心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせることを通して、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを実感したり、生涯に渡って心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための知識及び技能を習得できるように留意する。 ・「する・みる・支える・知る」といった生涯に渡る豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成に向けて、運動やスポーツの価値や文化的意義等の指導はもとより、指導する領域が有する特性や魅力が理解できていること、運動実践につながる態度の形成に関する知識を獲得していること、保健で学習する健康・安全の概念と体育の分野で学習する健康・安全の留意点との関連を図ることに留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康・安全に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全に関する課題に対応して、自己の健康・安全を保持増進するための的確に思考し、判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力の育成を目指すことに留意する。 ・健康に関する課題を解決するなどの学習活動を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、自ら考えたり、判断したりしながら実践的に理解できるよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数 ・自己の健康・安全に関する取組や自己の健康・安全の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問いの箇所数 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習した成果を実生活や実社会に生かすこと及び運動やスポーツの習慣化を図ることについて留意する。 ・自己の健康の大切さを認識し、健康・安全の保持増進や回復等に主体的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度が身に付くように留意する。 ・現在及び将来にわたって健康で活力に満ちた楽しく明るい生活を営む態度が身に付くよう留意する。 |

調査方法

種目名【 保健体育 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）や「する・みる・支える・知る」について扱っている箇所数について調査を行う。 （例）運動やスポーツの価値、文化的意義、領域が有する特性や魅力、運動実践につながる態度の形成、生涯にわたる豊かなスポーツライフ、健康・安全の留意点について記載されている箇所 ・健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数について調査を行う。 （例）より効果的に体力を高めること、習慣的に運動やスポーツを行うことの意義や例示の箇所 ・心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数について調査を行う。 （例）・科学的な根拠をもとに説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所 ・運動と健康の関連について具体的に記載している箇所 ・心肺蘇生法の技能について記載している箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）「自分の生活を振り返り、〇〇について課題発見しよう。」、「〇〇についてどんな方法があるか考えてみましょう。」「〇〇の理由について具体的に説明しましょう。」など、自他の課題を発見したり、学習したことを活用・選択し、判断したり、日常生活体験から自分の考えを説明したりする活動が記載されている箇所 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数について調査を行う。 （例）科学的根拠を基に、説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数について調査を行う。 （例）・ルールやマナー、態度、「する・みる・知る・支える」、喜びに関わる写真の箇所 ・自己の健康・安全に関する取組や自己の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよき気付くような事例や問いの箇所数について調査を行う。 （例）「病気の予防で学習したことを生かして、次のことについて考えてみましょう。」など問題に設定されているものや、「学習のまとめ」コーナー等で学んだことを活用している事例を紹介している箇所 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）思春期に起こる体の変化など、吹き出しや専門家の話等で自分の体の変化を肯定的に捉えられるような内容が記載されている箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 保健体育

| | 観点A | | | 観点B | | 観点C | | |
|-------------------|---|---|---|--|---|--|---|--|
| | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | | |
| 調査研究事項 発行者 | りり運 扱方動 つ支(や てえ楽 る・み る・知方 箇所)と 数につ につす いて様 てな 取関 取わ | 扱を健 つ高康 てめや る必体 るの力 箇所要 数性状 につ況 いて て取 取り力 | のステ心 技ト課健 能レ課康 にス題康 対ののや す処解疾 るや決病 内容肺関 の蘇わ予 箇所そ防 数生るに 法内関 容容す 等、る | 取すす題身 りる資材に 上課料し げ題をに てを常 い解用日 る決話 箇所健合 数学、活 習安思 活全考 動を を促 | て真ど実 解やを踐 説図取 し、り理 たり上解 り上げを して、促 いる表、 るなコた 箇所をら 数を用い い写 | な方連 共を共 生共や の有ス 視すポ 点のー 箇所事 数多 で様 きな る楽 るし よう み | 事にやや自 例活回己 や動復の 問すの健 のよめ康 箇所さに・安 数気付全 付的の く、保 よ協持 う働増 的取 進組 | な身近 内をな 容を健 取定康 りや 上心的 げに てえ身 ら育 れる 箇所 数達 |
| 東京書籍 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 大日本図書 | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 大修館 | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| Gakken | | | | ○ | ○ | ○ | | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| | | |
|-------------------|---|----------|
| 種目名 保健体育 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・心の健康や疾病の予防に関する内容等様々な健康課題に対する情報が掲載されており、「命や健康を守る」ためのスキルが身に付くように工夫されている。 ・健康で安全に生活するために、生涯にわたって役立つ技能が「巻末スキルブック」としてまとめられており、リラクゼーションや心肺蘇生の方法等の実習で活用できる内容や日常生活で活用できる内容が掲載されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の過程にそって、「見つける」「課題の解決」「活用する」「広げる」の順で紙面が構成されている。「活用する」では、日常における生活体験を題材にして、学んだ内容を活用してより深く考え説明したり、話し合ったり、まとめたりできるよう工夫されている。 ・「〇〇はどうなっているのでしょうか」「〇〇について考えてみましょう」といった、課題を発見したり、学んだことをさらに深めたりするような発問が数多く提示されており、生徒の思考を促す工夫がある。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の最後に設けられている「広げる」では、学んだことを生かして、健康・安全の保持増進のために、自分の生活を振り返り、これからの生活における実践意欲を高めるような問いかけがなされている。 ・運動やスポーツには、「する・見る・支える・知る」という多様な楽しみ方があることを、言葉とともに写真を掲載することで具体的に理解できるようにしたり、様々な職業に従事している人の話を紹介したりして、自分自身と結び付けて考えられるように構成されている。 | |

| | |
|------------|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が動画でコンパクトにまとめられており、理解を深めることができるようになっている。またワークシート等を活用することで他者と考えや意見を共有できるように工夫されている。 ・様々な運動や健康に関わる専門家へのインタビュー動画を視聴でき、運動やスポーツに関わる態度や多様な楽しみ方を知ることで、生き方に触れ、将来に生かすことができるよう工夫されている。 |
|------------|--|

| | | |
|-------------------|---|-----------|
| 種目名 保健体育 | 発行者名 | 大日本図書株式会社 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の左のページに本文を、右のページに本文の内容をより理解できるような資料やイラスト、表、写真等を用いた解説が記載されており、生徒が知識を習得しやすいように工夫されている。 ・「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」における資料には、運動やスポーツがもたらす効果について掲載されており、健康を保持増進する上で、体力を高める必要があることを生徒が理解できるよう工夫している。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「1時間の学習の主な流れ」が示されており、学習の過程のうち、導入の活動に取り組む際に活用する「つかもう」の欄は、日常生活の体験を振り返る発問によって、課題が発見できるよう工夫されている。また「話し合ってみよう」「やってみよう」「調べてみよう」では、資料を読み取ったり、考えを伝えたりしながら課題を解決できる活動が示されている。 ・生徒の日常の場面を想起できるような写真やイラストが用いられており、学習内容が自分事として捉えやすく、実践的理解につながる工夫がされている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「活用して深めよう」の欄では、学習したことを活用すると同時に、健康・安全に関する内容について自分の生活を振り返り、これからの生活につなげるような課題に取り組めるよう発問が工夫されている。 ・運動やスポーツへの多様な関わりについて、口絵や資料、コラムなどで紹介している。また、スポーツを通して身に付けるマナーや態度、喜びを分かち合ったり、称えあったりできるような共生の視点を学べるように工夫がされている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に役立つウェブサイトが紹介されており、学びをさらに深めたり、広げたりできるよう工夫がされている。 ・「まとめの問題」で、学習内容を確認できるようになっている。 | |

| | | |
|-------------------|---|-----------|
| 種目名 保健体育 | 発行者名 | 株式会社大修館書店 |
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する内容について、イラストで分かりやすく示されており、得た知識を実生活で活用できるようにする工夫がある。ストレス、欲求不満、スポーツと心のつながりについて詳しく記述されており、心の健康を保持増進するための知識が身に付くよう工夫されている。 ・本文で学んだことに関連した様々な情報をまとめた「特集資料」のページがあり、興味関心に応じて発展的な知識が得られるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」という順番で構成されており、「つかむ」の段階で活用する「課題をつかむ」の欄では、これまでの経験や学習を思い出しながら問題を解いたり、意見を出し合ったりすることで、生徒の気づきが生まれるように工夫されている。 ・人物のイラストが随所に配置され、吹き出しのセリフで学習の視点を示したり、思考を促す問いを発したりしている。また、コラム等で、生活に関連する情報が掲載されており、学んだ知識を生活に生かせるように工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無等をこえて運動やスポーツを行う意義を生徒が理解できるような写真が多く掲載されている。 ・学習過程の「まとめる・振り返る」に位置付けられた「学習のまとめ」には、学習したことをこれからの生活に活用するように促す発問があり、実践意欲が高まるように工夫されている。 | |

| | |
|------------|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている資料を動画として視聴でき、理解を深めることができる。コンテンツのワークシートを用いることで他者と思いや考えを伝えたり、共有したりできるように工夫されている。 ・クイズ形式で、学習したことを確認したり、振り返ったりできるようになっている。また、学習に役立つウェブサイトが紹介されており、学んだことをさらに深めたり、広めたりできる工夫がある。 |
|------------|--|

| 種目名 保健体育 | 発行者名 | 株式会社G a k k e n |
|-------------------|---|-----------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「実習」のページでは、一つひとつの項目が具体的に記載されており、技能の定着につながるよう配慮されている。 ・各章末に設けられた「探究しようよ！」では、運動やスポーツ、健康課題について学んだことを生かし、課題をみつけて取り組むことができるよう活動が工夫されており、生活への実践につながる内容になっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の主な流れが丸囲みの数字で示され、導入時には「ウォームアップ」が設定されている。「ウォームアップ」では、事例や情報をもとに課題をみつけることで、思考を促す工夫がされている。身に付けることや考えたり判断したりすることを確認する「学習の課題」では、【わかる】と【考える】で発問を分け、理解する内容と考える内容が整理されている。 ・「エクササイズ」では、日常生活の体験や事例を題材に、学んだことを生かして、調べたり、話し合ったりする活動が示されている。終末の「学びを生かす」には、「～を発表してみましよう」等、仲間と意見を交流することで思考を働かせたり、自分の考えを見直したりする活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の最後に「とりくメーカー」が掲載され、生徒が1時間の取り組み度合いを記録することで主体的に取り組めたか振り返ることができるようになっている。 ・保健体育の学びがウェルビーイングの向上につながり、自らの価値観や生き方を考えるように示されている。 | |

| | | |
|------------|--|--|
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に役立つデジタル教材が单元ごとにまとめて掲載されており、教材を選びやすくなっている。 ・ワークシートが掲載されており、活用することで学んだ内容を振り返ることができ、また、個人の生活に生かせる個別最適な学びにつながるものになっている。 | |
|------------|--|--|

技術・家庭（技術分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

観点の内容

技術・家庭科（技術分野） 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みについて取り上げている箇所数 ・製作や栽培又は飼育、検査・点検等ができる技能について取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで開発され生活や社会で利用されてきた技術について、その仕組みと関係する科学的な原理・法則の理解と、それらに係る技能の習得を図ることに留意する。 ・製作、制作、育成、調理等の実習の指導において、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱うため、安全の保持に十分留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数 ・課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野として解決を目指す問題の範囲が、身近な生活といったものだけでなく産業等も含めた社会にあることに留意する。 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想し、製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善することのできる力を育むことができるよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数 ・環境や経済、社会と技術との関わりやよりよい生活、持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野として育成を目指す学びに向かう力、人間性等が、安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度であることに留意する。 ・社会からの技術に対する要求と、開発・利用時の安全性、自然環境に関する負荷、開発・利用に必要な経済的負担等の相反する要求の折り合いを付け、最適な解決策を考えられるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 技術・家庭科（技術分野） 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かる表や図、写真の箇所数について調査を行う。 （例）木質材料の拡大写真、魚の生産量に養殖の占める割合のグラフ、蛍光ランプ中の電子の動きの図などの箇所 ・製作や栽培又は飼育、検査や点検などの技能に関する基礎的な内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）作業手順の流れ・用具の扱い方、安全に関する注意事項などの箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）「考えよう」「問題点を見つけよう」といった問題点を考えさせるための表記や項目などの箇所 ・課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）問題解決学習の具体的な学習の流れや実践例などの箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）評価レポート例、製品等の改善、修正に向けた質問や自宅での活用例の紹介などの箇所 ・環境や経済、社会と技術との関わりやよりよい生活、持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）木材の循環に関する資料、水産生物の生育環境の図、大規模建造物の構造に注目した写真や図、発電方法と環境への影響をまとめた比較図などの箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 技術

| | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|---------------|--|---|--|--|---|---|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 所仕のギ材 数組科―料 み学変、加 に的換及工 つな及び、 い原情生 て理や報物 取り法の育 上げ則技成 て基に、エ 礎的につネ いる的いル 箇なて | て等製 いるが作 るでや 箇できる 所る裁 数技又 能は につ飼 いて育 て、 取査、 上・ げ点 げ検 | 所る生 数問活 題や に社 つ会 いの て中 取りに りある 上げ技 て術 いるに る関 箇わ | 数過課 程を に設 つ定 いてし 取り解 り決 上げす る一 連の 学 習 | に改問 つ善題 いて、 取正と りやそ 上げ生 てへの いる活 箇用を 所返 数仕 方、 | 箇会り 所のや 数構よ 築り に、 関し して 取り、 上げ て能 いな る社 わ |
| 東京書籍 | | | ○ | ○ | | ○ |
| 教育図書 | | ○ | | | ○ | ○ |
| 開隆堂 | ○ | | ○ | | ○ | |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 技術・家庭科（技術分野） | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各章の内容に関連する資料を見開きのページに掲載した「技術のとびら」に科学的な原理・法則等がまとめられており、学習内容をより深めることができる。 問題解決をするために必要な技能やそれらの技能を使った実践例が「TECH Lab」のページとしてまとめられており、取り組む課題に応じて、習得した技能を適切に活用できるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 学習課題の前に「レッツスタート」という活動が示されており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになっている。また、「考えてみよう、話し合ってみよう、調べてみよう、やってみよう」と呼びかける言葉を示し、生徒が主体的に調べたり、仲間と協働して比較・検討したりすることで、探究的な学びが実現できるよう工夫されている。 問題解決例には、具体的な事例をもとに「問題の発見、課題の設定」「解決策の構想」「評価、改善・修正」「新たな問題の発見」の流れが示され、生徒が自ら問題解決に取り組むことができるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 内容ごとに、「未来のTechnology」として、技術ガバナンス（技術を評価し、選択、管理・運用する力）、技術イノベーション（技術を改良、応用する力）について考えを深めるためのワークシートが掲載されている。また、学習の最後に「まとめよう」「振り返ろう」「深めよう」という欄を設けることで、生徒自らが学びを確認し、次の学習に取り組むことができるよう工夫されている。 「技術の匠」という欄に技術に携わる人からのメッセージが掲載されており、社会と学習とのつながりを意識できるようになっている。さらに、技術の学習をさらに深めたり調べたりすることができるよう、「すごいぞ！技術」として、社会問題に取り組む技術が紹介されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ほぼ全ての見開きページの右上に二次元コードが示されており、生徒が興味をもった内容についてさらに学びを深められるよう多様なコンテンツを利用できる。 学習内容に関わるクイズや基礎技能を確認できる動画、思考を広げ整理できる思考ツール、何度でも試行錯誤できるシミュレーションなどのコンテンツが掲載されており、個別最適な学び、協働的な学びなどに活用することができる。 | |

| 種目名 技術・家庭科（技術分野） | 発行者名 | 教育図書株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かる図や写真が大きく掲載されている。また、視認性を高めるために重要語句が青太文字になっている。 ・安全や衛生に配慮して活動に取り組むことができるよう、技術分野全体に関する安全のページや、各編ごとの安全のページが設けられている。 ・教科書本体以外に基礎的な技能についてまとめた別冊（スキルアシスト）が用意されており、実習での作業手順や資料が数多く掲載されている。別冊を活用することで、生徒が必要に応じて個々に確認し、確かな技能を身に付けることができるように工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各編に「考えてみよう」や「やってみよう」という項目が設けられおり、身近な問題や技術の発達によって生じたプラス面の例とマイナス面の例をもとに、自らも他の技術について自分なりに考えられるようになっている。 ・巻末に「設計・計画（育成）シート」が用意されており、見本も提示されていることで、表現することに難しさを感じる生徒も設計や計画を記入しやすいよう配慮されている。また、身近な問題解決の事例が生徒に親しみのある漫画で示されており、生徒自身が主体的かつ段階的に技術による問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめりごとに、導入には「めあて」と「キーワード」が、終末には「振り返る」の項目が設定されており、生徒が毎時間見通しをもって学習に取り組み、自らの学びを振り返ることができるよう構成されている。また、「見つける」として、生徒の疑問や関心が対話式のイラストで掲載されており、学習への意欲が喚起されるよう工夫されている。 ・様々な製品に込められた技術についてのコラム「スゴ技」や技術者からのメッセージ「技ビト」では、ものづくりにおける工夫や創造することの大切さ、製品を作り出す責任や倫理観などが掲載されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・動画は手元を拡大するなどして、作業の様子がわかるようになっており、作業場面ごとに短時間で視聴できる。 ・サンプルプログラムを活用することで、生徒が自らプログラミングの手順やしくみを確かめたりプログラムを改良したりすることができる。 | |

| 種目名 技術・家庭科（技術分野） | 発行者名 | 開隆堂出版株式会社 |
|-------------------|---|-----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術の科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かる図や写真が数多く掲載されている。中でも写真数が多く、サイズも大きいため実際の物や場面をもとに生徒が学習内容を理解しやすくなるよう工夫されている。 ・作業の内容を示したページには「安全」に関するマークが多く配置されており、事故の未然防止に向けた配慮がみられる。また、作業をしている人物の視点から撮影した写真が使用されているなど、生徒が手もとの安全に留意できるように工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学習課題」を具体的に示すことで、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができるような工夫や、実験などを通して科学的な視点を育てる配慮がされている。また、技術の見方・考え方で既存の製品等を読み解き、最適化に向けたさらなる改善点を考えた例をもとに、自らの課題についても考えを進めるページが設けられている。 ・見開きで示された実習例では、問題解決の流れを「問題の発見と課題の設定」「構想と設計（計画）」「製作（制作、育成）」「成果の評価と改善」として手順や考え方を明確に示すことで、活動に取り組みやすくしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめりごとに振り返りの視点を具体的に示した「CHECK」という欄が設けられている。また、実習後に問題解決の評価・改善を行うことができるよう、「問題解決のふり返しシート」が記入例と共に示されている。 ・環境について考える内容にマークが付けられており、持続可能な社会の構築を意識できるようになっている。また、各内容の最後に特設ページとして、社会で活躍している技術者等のインタビューが掲載されており、技術に関係する仕事に興味をもち、学習内容と社会とのつながりを意識しながら学ぶことができるよう工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツの目次が教科書の目次と連動しており、観たいコンテンツを容易に探すことができる。 ・教科書に記載されている「学習課題」と「CHECK」の欄を含む学習の流れに沿ったコンテンツが充実している。 | |

技術・家庭（家庭分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

観点の内容

技術・家庭科（家庭分野） 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|---|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解に関わる資料の箇所数 ・調理や製作などの技能に関する内容を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るために、調査や話し合い活動を取り入れ、生徒が主体的に考えられるよう留意する。 ・実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、一定の手順や段階を追って身に付けるだけでなく、自分の経験や他の技能と関連付けながら主体的に活用できる知識・技能として習熟・定着させるよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域で活用するための教材や学習活動を設定している箇所数 ・問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」において、家族・家庭生活や衣食住の生活、消費生活・環境で学習した内容との関連を図りながら課題を設定し、実践的な活動を家庭や地域で行うことができるよう留意する。 ・問題解決的な学習においては、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、考察した意見を他者と交換する活動を通して、多角的に検討できるよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児や高齢者などとの関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数 ・各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数 | <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた資質・能力を活用して、家族と協力し、地域の人々と協働しようとする態度、日本の生活文化を継承しようとする態度、生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度、将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとするなどの実践的な態度を養うことができるよう留意する。 ・各教科や道徳等の指導内容との関連を図るとともに、小学校家庭科や高等学校家庭科における学習と系統立てて、生徒の生活とのつながりを重視し、家庭や地域における実践に結びつけることができるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 技術・家庭科(家庭分野) 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解につながるグラフや表・図・写真・資料の箇所数について調査を行う。 (例) 幼児と中学生の体型の比較図、食品の成分グラフ、住まいにおける地震対策の図、繊維の拡大写真などの箇所 ・調理や製作などの技能の定着を図る内容(作業手順の流れ・用具の扱い方など)を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 食材の切り方、計量の仕方、スナップのつけ方、ミシンの取り扱い方などの箇所 |
| <p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や地域で活用するための教材や学習活動の箇所数について調査を行う。 (例) 調理例、作品例、発展、探究、実習、考えてみよう、調べてみよう、やってみよう、挑戦しようなどの箇所 ・問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 問題解決学習の事例、話し合おうなどの箇所 |
| <p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児や高齢者など家族や地域の人々との関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 幼児・高齢者とのふれあいや日本の伝統文化に関する資料、プロへのインタビューなどの箇所 ・各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数について調査を行う。 (例) 他教科や道徳、小学校の学習と関連がある箇所 |
| <p style="text-align: center;">デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 家庭

| | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|-------------------|---------------------------|-----------------|
| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 発行者 | 家族・家庭、衣食住、消費や環境 | 調理や製作などの技能に関する内 | 家庭や地域で活用されるための教材 | 問題を解決的な学習の一連の学習過程 | 幼児や高齢者などの関わり、将来の家庭、生活や職業と | 各教科等の内容や、道徳の内容、 |
| 東京書籍 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 教育図書 | | | ○ | ○ | ○ | |
| 開隆堂 | ○ | ○ | | | | ○ |

※発行者の特長である項目について、発行者ごとに3つずつ○印を付しています。

| 技術・家庭科 (家庭分野) | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じて学ぶことができるように「A 家族・家庭生活」の題材が分散して配列されている。 ・調理や製作等の技能の定着を図る「いつも確かめよう」では、調理の基礎や製作の手順が写真を使って分かりやすく示されている。作業をしている手もとが写っており、道具の持ち方等を確認できることで、生徒の理解が深まるよう工夫している。 ・実習例では、調理の手順を時間の経過とともに分かりやすく示している。また、実習で扱う料理と組み合わせる料理を献立で調理する場合の手順例も合わせて示されているため、効率よく調理を行うための技能の定着を図ることができるように工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭分野のガイダンスの教材として、巻頭に「自分の生活チェック」のページがある。第1学年の最初と3年間の学習後にチェックしてグラフにすることで、自分の生活に対する行動の傾向等が確かめられ、3年間の学びを振り返ることができるようになっている。 ・学習のはじめの「レッツスタート」の活動をもとに「学習課題」が提示され、学習の最後の「まとめよう」や「生活に生かそう」でまとめの活動を行うという一連の流れが見開きで設定されており、学習の見通しがもちやすい。また、自分の生活を振り返り、課題を設定し、実践的な活動を家庭で行うことができるように構成されている。 ・自分で内容を選択して実践するための教材である「生活の課題と実践」では、レポートの具体例が示されており、生徒が実践をイメージして取り組めるように工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各編の最後に、持続可能な社会の構築に向けた内容がまとめられている。また、巻末には、家庭分野に関わるSDGsについてまとめられており、情報を整理して提示することで学習が深まるようにしている。 ・学習していることと、他教科等や小学校家庭科との関連が分かるようにリンクマークを用いて示している。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・動画やシミュレーション、思考ツール、ワークシート、クイズ、資料、WEBサイト、他教科の教科書紙面等、多種多様なデジタルコンテンツがある。 ・「バランスのよい献立作成」では、栄養バランスが自動で計算・グラフ化され、学習の導入の「問題発見、課題の設定」で活用できるようになっている。 ・学習を振り返る「自己評価チェックシート」には、自己評価に加えてこれからの生活に生かしたいことを書き込むことができるようになっている。 ・動画資料は、再生、停止、速度、ボタン位置の切り替え、繰り返し再生および、字幕の機能等がある。また、技能の定着を図るための包丁の使い方等については、右利き、左利き用のそれぞれが準備されている。 | |

| 技術・家庭科 (家庭分野) | 発行者名 | 教育図書株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 調理や製作の実習について、写真やイラストを縦に並べて手順を示されている。 調理のめあてにつながる問いやその答えが「Q」「A」のマーク付きで分かりやすく示されており、生徒がなぜその作業が必要であることを理解した上で技能を習得できるように工夫されている。また、蒸し器がない場合の対処方法を示す等、生活様式に合わせて実践できる知識及び技能を得られるように工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 調理や製作実習の応用例や工夫を促す資料等があり、生徒のニーズに合わせて活用することができるようになっている。特に、布を用いた製作では、製作したいものの大きさを書き込める欄があるため、必要な布の大きさを考え、目的に応じて製作できる題材になっている。 各編の最初には、「自立度チェック」の欄が設けられており、自分自身の生活の中から問題を見いだすことができるように工夫されている。 各章の終末に「学びを生かそう」というページが設定してあり、その章で学習した内容を振り返り、自分自身の生活上の課題と結び付けて、問題解決の方法について学ぶことができるように工夫されている。また、家庭での実践につながる複数の例と記録レポートの例が掲載されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、日本の伝統的な年中行事や、衣食住に関わる多様な写真やイラストが掲載されており、伝統的な文化について考えられるようになっている。 「持続可能な社会の構築」に向けて、見開きでまとめることで生活とSDGsのつながりをイメージしやすいように工夫している。 各編の最後に「センパイに聞こう!」という内容が位置付けられ、学習したことを自分の将来と結びつけて考えられるようにしている。 | |
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの表示がシンプルであり、リンク先の情報を表示する等、どのような情報が得られるかが一見して分かるように工夫されている。 題材の導入に活用することができる「ワークシート」があり、学びの動機付けとなるようにしている。 「献立バランス計算ソフト」は、教科書の巻末の「学習シール」と連動しており、食品群別のバランスを確認できるとともに、食品群別摂取量を自動的に計算し、グラフ化されることで、各食品群の過不足が視覚的に理解できるようになっている。 動画資料は、再生、停止、10秒戻し、10秒送り、消音等の機能がある。 | |

| 技術・家庭科 (家庭分野) | 発行者名 | 開隆堂出版株式会社 |
|-------------------|---|-----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「目に見えない栄養素を見てみよう」等、生活の中では形として見えない内容について、実験の様子を写真やイラストで視覚的に分かりやすく示し、科学的根拠に基づいて理解できるようにしている。 ・調理の実習例のページでは、調理の手順が写真を横に並べて提示されている。また、科学的な理解を深める「調理方法Q&A」の欄が設けられており、調理方法についてなぜそのようになっているのか考え、確実な理解につながるように工夫されている。 ・調理の基礎の「切る」では、材料に応じた様々な切り方が、写真と破線で分かりやすく示されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・調理例や作品例に「伝統」「防災」「環境」の観点が入り入れられており、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて、調理や製作に取り組めるようにしている。アレンジ例も掲載されている。 ・具体的な生活場面を示す写真やイラスト等から日常を見つめ直し、自分自身の課題を発見できるように工夫されている。各編の終わりに「学習のまとめ」を設定し、既習内容を振り返って、新たな目標や課題を見つけられるように工夫されている。 ・「生活の課題と実践例」のページには、課題解決の流れに沿って例が示されており、生徒が実践の流れをイメージして、主体的に学習を進められるようにしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「A 家族・家庭生活」では、ジェンダー、LGBTQなど多様な性、ヤングケアラー、児童虐待など現代の社会的な問題に関わる内容について、事例を取り上げて様々な視点から考えが深められるように取り上げられている。 ・「防災」に関する内容を「B 住生活」でまとめて取り上げ、平常時、災害発生時、災害後について、過去の災害の経験から学び、生活を見直し改善できるように取り上げている。 ・他教科や道徳との関連はページ右上にマークで示されているため、学習内容を他教科の学習や生活と結び付けて理解し、生かせるようになっている。 | |
| デジタル教材 について | <ul style="list-style-type: none"> ・「ダウンロード」ボタンがあり、ワークシートや資料の画像等が端末に保存できる。 ・学習のまとめとして「自己評価チェックシート」があり、短時間で自分の学びを振り返ることができる。 ・動画の中には、NHKや消費者庁が作成している資料が含まれており、生徒が多様な情報に触れ、学びを深めることができるようになっている。 ・動画資料は、再生、停止、10秒戻し、再生速度、消音等の機能がある。また、技能の定着を図るための野菜の切り方等については、右利き、左利き用のそれぞれが準備されている。 | |

英 語

東 京 書 籍

開 隆 堂

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

啓 林 館

観点の内容

外国語科 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|--|--|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数 ・「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語材料のうち、五つの領域別目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数 ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数 ・日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、これらを論理的に表現することができるよう留意する。 ・言語活動を行うに当たり、言語の使用場面や言語の働きを取り上げるよう留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通して生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をするよう留意する。 ・英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 英語 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|---------------------------|--|
| <p>A 知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」における技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行う。 （例）ListenやQ and A等の技能別（領域別）活動の箇所 ・「話すこと [やりとり]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」における技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行う。 （例）SpeakやWrite等の技能別（領域別）活動の箇所 |
| <p>B 思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）現在ヒットしている5本の映画についての情報を聞き取るなどの言語活動の箇所 ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）地球にやさしいエネルギー源について書かれた資料を読み、一番よいと思う発電方法を選び、理由も含めて発表するなどの言語活動の箇所 ・日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）夢の世界旅行について考え、自分の行きたい国とそこで何をしたいかを伝え合うなどの言語活動の箇所 |
| <p>C 学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）メールの書き方について、モデル文を理解した後、メールに使える表現を選び、それらを活用してメールを書く等の言語活動の箇所 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数について調査を行う。 （例）アメリカでのホームステイ、世界に広がる日本食文化、世界で活躍する日本人、環境問題等が題材として設定されている箇所 |
| <p>デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |
| <p>デジタル教科書</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・書かれている英文等について、語彙や表現の習得が可能となる機能の有無について調査を行う。 （例）音声と同時に文字の色が変わる機能や、マスク機能等 ・使用場面が設定された言語活動等について、より内容が理解できる動画の有無について調査を行う。 （例）音声の速度を調整する機能や、英文の表示・非表示の選択機能、アニメーション動画等の再生機能等 ・書き込んだ内容に基づいて交流することにより、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた内容に再構築することを促すことができる書き込み機能の有無について調査を行う。 |

調査結果 英語

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|--------|------|-----------------|--------------|------------------|--------------|-----------------------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 聞いた回数 | 話す回数 | 日常生活に必要な英語の活動を数 | 日常生活で英語の活用を数 | 日常会話の場面での英語の活用を数 | 主体的な取り組みを数 | 外国語の理解を深めるための精神的・文化的資質の育成を数 |
| | | 東京書籍 | 1年生 | | ○ | | ○ | |
| | 2年生 | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 3年生 | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 開隆堂 | 1年生 | | ○ | | | | ○ | ○ |
| | 2年生 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | 3年生 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 三省堂 | 1年生 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| | 2年生 | | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 3年生 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 教育出版 | 1年生 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | 2年生 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| | 3年生 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 光村図書 | 1年生 | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | 2年生 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 3年生 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 啓林館 | 1年生 | | | ○ | | ○ | ○ | |
| | 2年生 | | ○ | | | ○ | ○ | |
| | 3年生 | | ○ | | | ○ | ○ | |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 英語 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・掲載されている言語材料を十分に活用できるよう、本文の内容に関係した対話をしたり、自分自身について表現したりする活動が設定されている。 ・本文で学んだ語彙や表現、文法事項が定着するように、音読を促したり、他者とやり取りしたりする構成となっている。 ・学んだ文法事項の意味や使い方等を確認するページがある。また、確認した文法事項を使ってパターンプラクティスができるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに「Preview」の動画があり、それを視聴することで、目的や場面状況等を把握しやすくしている。「Read and Think」では、生徒が長文の内容を段階的に理解していけるよう、3つのステップが組まれている。 ・ページ最下部に、相手意識をもって意見や考えをやり取りしたり、書いたりする活動場面が設定されている。 ・多くの単元の終末に「Unit Activity」や「Stage Activity」があり、思考を働かせながら、思いや意見を発信する活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な国の多様な情報を扱っており、生徒が興味関心をもつことができるようになっている。 ・「Real Life English」では、実生活で遭遇するような具体的な場面が設定されており、主体的に英語を使用することができるようにしている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードからデジタル教科書で扱っているものと同様の資料、動画、クイズ等のコンテンツにアクセスすることができる。 ・用例辞典が搭載されており、検索したい言葉を入力すると、学習する学年や教科書に示されている用例を調べることができる。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Key Sentences」に関わるクイズが掲載されており、学習内容が定着しているかを確認することができる。 ・聞く箇所を選択したり、音声の再生スピードを調整したりすることができ、自分のペースに合わせて繰り返し聞くことができる。 ・生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

| 種目名 英語 | 発行者名 | 開隆堂出版株式会社 |
|-------------------|--|-----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・その時間に学習することの問いが、日本語で示されており、英語が苦手な生徒もポイントを踏まえて、本文を聞いたり、読んだりできるよう工夫されている。 ・すべての単元がマンガ形式の導入で、場面や状況を想像しながら、新出表現に着目できるようにしている。また、知識が定着するような練習問題が設定されている。 ・ページの最下部に、発音の仕方について、日本語にない音や注意して発音すべき音、強調して発音すべき部分ができるように記載している。また、小学校で学んだ単語や既習事項を想起できるような提示の仕方を工夫している。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の終末に設定されている「Review and Retell」では、本文の内容を振り返り、自分の言葉で伝える活動が設定されている。 ・単元で学習した内容や既習表現の定着が図れるよう、本文の題材に関連した自己表現活動「Action」が設定されている。 ・対話やスピーチ等を聞いたり、読んだりして、情報を整理した上で、自分の考えを伝えたり、やり取りしたりする「Our Project」が毎学期末に設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元につき2～3回程度「Small talk」が設定されている。本文の内容や日常生活に関連した話題が豊富に提示されており英語で話す意欲が高まるような工夫がされている。 ・生徒の発達段階に応じて、興味関心をもって学ぶことができるような文化や時事、社会の課題に関わる話題が取り上げられている。 ・「Our Project」では、ゴールに向けて、ポスターセッション等の活動を通して、主体的に取り組むことができるような活動が設定されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードから単語学習アプリに移ることができる。出題のパターンが豊富で自分に適した内容を選んで学習することができる。 ・「Our Project」にはモデル動画が掲載されており、既習内容をどのように活用すればよいかを確認できるようになっている。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・単語アプリがあり、各学年の新出語彙等をクイズ形式で確認することができる。 ・聞く箇所を選択したり、音声の再生スピードを調整したりすることができる。自分のペースに合わせて繰り返し聞いたり、練習したりすることができる。 ・生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

| 種目名 英語 | 発行者名 | 株式会社三省堂 |
|-------------------|--|---------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各単元に基本的な技能の定着を図る「Exercise」が設定されており「聞くこと」および「書くこと」や「話すこと」の活動を通して、文法事項の定着を図ることができるようになっている。 1つの単元に2つ程度、Small Talkの話題が提示されており、既習の語彙や表現を活用することで知識や技能を定着できるようになっている。 各単元の導入に、聞く活動が設定され、小学校で培った聞く力を生かして中学校の学びにつなぐ構成になっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 単元終末の「Goal Activity」では、考えや意見を整理した上で、話したり書いたりすることができる活動が設定されている 学期末の自己表現活動として「Project」が設定されており、4技能5領域を統合した活動に取り組むことができるようになっている。 単元終末には、関連するテーマについて、まとまりのある文章を書いたり発表したりする活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な国の文化を取り上げたり、公平について考えたりするなど、多様な話題が取り入れられており、他者理解や国際理解につながるよう工夫されている。 「For Self-study」という資料で「単語の覚え方」や「相手に伝わる文章にするためのポイント」等の学び方が紹介されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> 発音図鑑が掲載されており、発音の仕方について、口唇や舌の動きを視覚的に確認することができる。 二次元コードを利用して、生徒が個別に音声や動画、発音チェックの情報にアクセスでき、家庭学習等に活用することができる。 基本文を学習できるドリルがあり「聞く→繰り返す→言う」の3ステップで繰り返し練習することができる。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の題材に関連した動画を見ることができ、各単元のテーマに関する内容を映像とともに学ぶことができる。 聞く箇所を選択したり、音声の再生スピードを調整したりすることができ、自分のペースに合わせて繰り返し聞いたり、練習したりすることができる。 生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

| 種目名 英語 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|---|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項について、取り上げた英文の仕組みを品詞等によって色分けしたり矢印を使って語順を示したりして解説し、視覚的に理解できるよう工夫している。 ・各単元は、新出文法が用いられた基本文が提示された後、パターンプラクティスやリスニング問題を設定して、学習した文法事項が定着するように構成されている。 ・やり取りの活動として設定されている「Activities Plus」では、既習の文法事項を活用して応答する質問が10個程度提示されており、「話すこと」の技能を高める工夫がされている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学期末の学習活動として、5領域の力を統合的に活用する「Project」があり、既習事項を用いて、ペアやグループなどで互いに考えたことを交流し合う学習活動が設定されている。 ・各単元後には、技能を高めるためのコツを示した「Tips」というコーナーがあり、コツを踏まえて考えながら英語を使用することができるようになっている。 ・単元末の「Task」では、学習したことを復習したり、活用したりする活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初のページに、「内容理解」と「活動」の目標が示されており、具体的に何ができるようになればよいかの見通しをもって学べるよう工夫されている。 ・各単元の終末には、「内容理解」と「活動」の目標に応じた振り返りがあり、4段階で自己評価ができるようになっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・多くのページに、二次元コードが掲載されており、音声教材やワークシートなどが目的に応じて活用できるようになっている。 ・新出語彙や表現を定着するための「学習シート」があり、家庭学習で活用することができる。また、「活動用ワークシート」を活用して復習できる。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・再生、録音機能があり、自分の声を録音してネイティブ・スピーカー等が話す音声と比較しながら練習することができる。 ・聞く箇所を選択し、音声の再生スピードを調整することができ、自分のペースに合わせて繰り返し聞いたり、練習したりすることができる。 ・生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

| 種目名 英語 | 発行者名 | 光村図書出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しく文法事項を学ぶ際には、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の順で学習が設定されている。 ・読み物教材の「Let's Read」では、英語による複数の質問が設定されており、それらに答えながら読むことで、要点が理解できるよう工夫されている。 ・巻末には、本文に沿ったイラストやキーワードを参考にして、既習表現を用いて話す活動が設定されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを広げたり、整理したりする「思考の地図」が巻末に掲載されており、目的に応じて活用できるようになっている。 ・「You're the Writer!」という活動を設定し、本文に書き加える内容を考えることで、本文の内容を自分事として考えられるよう工夫している。 ・やり取りを継続したり、自分の思いや考えを表現したりできるように、「その場でスピーキングLet's Talk」が設定されており、短時間の学習として活用できる。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年3つ程度「World Tour」が付録として掲載されている。様々な国に住む人々の生活等について紹介されているため、多様な文化や価値観を知ることができる。 ・巻末資料の「英語の学び方ガイド」では、領域別の学び方や家庭学習の仕方等が Q&A形式で紹介されており、生徒が目的に応じて活用できるようになっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・全Unitに補充用リーディング教材として「Extra Story」が設けられ、本文の続きを聞くことができる。 ・単元のはじめに設定されている「Picture Card 並べかえ」では、本文の音声を聞きながら、提示された絵を並べ替えることで、話の流れを確認できるようになっている。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・本文実写ドラマがあり、字幕を表示したり、消したりすることができる。 ・聞く箇所を選択し、音声の再生スピードを調整することができ、自分のペースに合わせて繰り返し聞いたり、練習したりすることができる。 ・生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

| 種目名 英語 | 発行者名 | 株式会社新興出版社啓林館 |
|-------------------|--|--------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しく文法事項を学ぶ際には、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の順で学習が設定されている。 ・欄外に小学校で学習した単語と新出語句ごとに分けて示してあり、獲得すべき知識が一見して分かるように構成されている。 ・各単元のテーマに沿って、即興的なやり取りができる「Enjoy Chatting」が各パートに設定されており、言語材料をすぐに活用できるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習の文法事項を活用して自分の意見や考えを発信できるように、各パートの終末に「Express Yourself」が設定されている。 ・単元の終末に、テーマに関わる内容について考えながら読んだり、考えてから発信したりする活動が設定されており、言語活動に継続的に取り組めるようになっている。 ・学習したことを統合的に活用する言語活動として「Project」が設定されており、自分の考えや思いなどを工夫して表出できるようにしている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールとして、「インプット」と「アウトプット」の両方が設定しており、4技能5領域がバランスよく習得できるように工夫されている。 ・巻末に学年の到達目標が掲載されており、自己評価できるようになっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の音声等をアニメーション動画やスクリプトを見ながら聞くことができる。 ・新出文法の解説動画を活用し、授業のはじめに前時の復習をしたり、家庭学習に活用したりすることができる。 | |
| デジタル教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・聞く箇所を選択し、音声の再生スピードを調整することができ、自分のペースに合わせて繰り返し聞いたり、練習したりすることができる。 ・生徒が、聞いた情報や自分の考え、共有した情報などを整理し、再構築できるようにするための書き込み機能がある。 | |

道 徳

東 京 書 籍

教 育 出 版

光 村 図 書

日 本 文 教 出 版

G a k k e n

あ か っ き 教 育 図 書

日 本 教 科 書

観点の内容

道徳科 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

| 観 点 | 観点のための研究調査事項 | 指導についての留意事項 |
|----------------|---|---|
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の理解に関わる学習活動の箇所数 ・現代的な課題に関する内容等多様な教材の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同様に人間理解や他者理解を深めていくよう留意する。 ・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって学ぶことができるように留意する。 |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動の箇所数 ・多様な考え方を生かすための言語活動の箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・物事を一面的に捉えるのではなく、生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができよう留意する。 ・生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させることに留意する。 |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動の箇所数 ・各教科等と関連をもたせた指導、日常生活における実践との関連に関する内容を取り上げている箇所数 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう留意する。 ・各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができる。その際、各教科等と道徳科それぞれの特徴が生かされた関連となるよう留意する。 |

調査方法

種目名【 道徳 】

| 観点 | 調査する内容・項目についての説明 |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材以外の、道徳的価値の理解を深める教材の数について調査を行う。 (例) コラム、先人の名言等を取り上げている箇所 ・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応(情報モラル)等の現代的な課題などに関する内容等について調査を行う。 |
| <p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考えるための学習活動に資する教材の数について調査を行う。 (例) 友達のいいところ見つけ等、多様な考え方が生まれる活動 ・多様な考え方を生かすための言語活動について、書き込み部分の数や話し合い活動を具体的に設定した数について調査を行う。 |
| <p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動を設定している教材の数について調査を行う。 ・道徳科と各教科等との関連をもたせた指導、日常生活における実践につなげることができるような設定をしている教材の数について調査を行う。 |
| <p>デジタル教材について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。 |

調査結果 道徳

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|----------|--------|----------------------|------------------------|------------------------------|-----------------------|---|---|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 道徳的価値の理解に関わる学習活動の箇所数 | 現代的な課題に関する内容等多様な教材の箇所数 | 物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動の箇所数 | 多様な考え方を生かすための言語活動の箇所数 | 自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動の箇所数 | 各教科等と関連をもたせたい指導、日常生活における実践との関連、数関する内容をとりあげている箇所 |
| | | 東京書籍 | 1年生 | ○ | | | ○ |
| 2年生 | ○ | | | | ○ | | ○ |
| 3年生 | ○ | | | | ○ | | ○ |
| 教育出版 | 1年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 2年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 3年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| 光村図書 | 1年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 2年生 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 3年生 | ○ | | ○ | | | ○ |
| 日本文教出版 | 1年生 | | | | ○ | ○ | ○ |
| | 2年生 | ○ | | | ○ | ○ | |
| | 3年生 | ○ | | | ○ | ○ | |
| Gakken | 1年生 | ○ | ○ | | ○ | | |
| | 2年生 | ○ | ○ | | ○ | | |
| | 3年生 | ○ | ○ | | ○ | | |
| あかつき教育図書 | 1年生 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 2年生 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 3年生 | | ○ | ○ | | ○ | |
| 日本教科書 | 1年生 | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 2年生 | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 3年生 | | ○ | | ○ | | ○ |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 東京書籍株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルや防災等、様々なジャンルのコラムが掲載されており、道徳的価値の理解を深められるようになっている。また、SDGsと関連する道徳教材が全学年に3つずつ掲載されており、SDGsについて生徒が様々な角度から内容項目と結び付けて考えられるように工夫されている。 ・「いじめ」と「いのち」のユニットについては、3年間系統的に学ぶことができるように、それぞれのユニットの学習時期が3学年で統一されている。「いのち」のユニットには、防災に関するコラムがあり、災害に備えるための知識が得られるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを広げたり深めたりすることができるコラム「Plus」では、体験的な学習として役割演技をする活動や、問題解決的な学習として生徒が問いを立て話し合いながら考える活動を設定する等、生徒の多様な考えが生まれるよう工夫されている。 ・各教材の「つぶやき」の欄やユニット教材に設けられている書き込み欄に、自分の考えをまとめたり整理したりして記述することができ、それを基に話し合いにつなぐことができるよう工夫されている。 ・巻末に付いている心情円や、二次元コードから読み取れるデジタル心情円は、考えや思いの可視化を図り、話し合い活動を活性化するために活用できる。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「自分の学びをふり返ろう」というワークシートが付されており、学期ごとに振り返りができるようになっている。また、来学期の目標を記入できるようになっており、これからの課題や目標を見つけられるよう工夫されている。 ・各教材冒頭に、他教科との関連がある教材については、教科名が明記されている。また、巻末の「教材一覧表」には、他教科等の関連に加え、学習の場面で活用できるデジタルコンテンツの機能がアイコンでわかりやすく示されている。 ・教材の終末の「見つめよう」では、「～するには、どのようなことが大切だろう」等、学習したことを日常生活にどのようにつなげていくかについて考えることができる発問が掲載されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教材に二次元コードが付いており、「朗読」、「ワークシート」は全ての教材に掲載されている。 ・他教科に関連する教材の場合、他教科の教科書紙面に移り内容を確認することができる。防災に関しては、VR映像の視聴が可能である。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 教育出版株式会社 |
|-------------------|--|----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション」「持続可能な社会」「情報モラル」について全学年でコラムが掲載されているほか、いじめ、防災等現代的な課題を取り上げている教材があり、学んだ道徳的価値について実生活とつなげて考えられるよう工夫されている。 ・「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせる」「つながり合って生きる」については、2つの教材とコラムでユニットを組み、重点的に取り扱っている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ひろば」というページや教材の中に設定されている書き込み欄は、自分の考えだけでなく友達の考えを書き込んだり、立場を変えて書き込んだりできるようになっており、物事を多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・教材の最後にある「学びの道しるべ」では、自分の考えを出し合ったり話し合ったりする活動が示されており、活用することで多様な考えに触れられるようになっている。 ・「やってみよう」というページでは、体験的な活動として役割演技が設定されており、それを基に話し合いにつなげることができるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「道徳科の学びを振り返ろう」のページが設けられており、毎学期の振り返りや1年間の振り返りができるようになっている。心に残った教材を記入することで、主体的に道徳的価値について学んだことを想起できるようになっており、生徒が成長を実感できるよう工夫されている。 ・1年間の学びを基に考える「よりよく生きるって、どういうことだろう？」のページでは、全学年同じ発問に答えるつくりになっている。発問項目は、自分にとっての幸せや周りの人や社会にとっての幸せを考えることを通して道徳科の学びを生活に生かす工夫がされている。 ・教材の初めには、自分を振り返る発問が掲載されている。また、教材の最後の「学びの道しるべ」には、「～していきたいだろうか」等、学習したことを実生活にどのようにつなげていきたいのかを考える発問が設定されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教材に二次元コードが付いており、教材のあらすじを確認できるようになっているため、事前学習に役立てることができる。 ・「まなびリンク」が設定されており、補足資料としてスピーチや動画等、外部サイトに移って学びを深められるようになっている。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 光村図書出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「人権問題」と「環境」については、各学年でコラムとして取り上げており、SDGsとの関連が示されていたり、扱う内容が学年が上がるごとに身近なものから社会全体に関わるものへと広がっていたり、工夫がある。また全ての学年の付録で「伝統と文化の尊重」を特集として取り上げており、重点的に学べるようになっている。 ・テーマごとに2～6つの教材をまとまりとしており、単発ではなく、関連をもたせて多面的・多角的に考えられるようになっている。特に「いじめ」「情報モラル」については全ての学年で重点的に取り扱われている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の終末の「考えよう」や「見方を変えて」の欄に、思考を深めるような発問が掲載されており、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 ・巻末には「まなびの道具箱」としてピラミッドチャートやベン図等、自分の考えを広げたり、整理したりするのに役立つ思考ツールが掲載されており、それを基に話し合うことで、多様な考え方に接し、考えを深められるようになっている。 ・「やってみよう」や「チャレンジ」のページでは、体験的活動として役割演技や、問題解決的な学習として問いを立て、話し合いながら考える活動が提示され、生徒の多様な考えを生かすための言語活動が設定されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「まなびの記録」というページが設けられており、1年間のめあてと振り返りを記入したり、毎時間の振り返りを記入したりできるようになっている。1年で自分が成長したと思うことを「道徳で学ぶ22のキーワード」と関連付けて記入できるよう工夫されている。 ・他教科との関連がある教材については、教科名が明記されており、各教科との関連をもたせた指導ができるようになっている。 ・教材の終末に設けられた「つなげよう」の欄には、「学んだこととつなげて考えてみよう」等、学習したことを実生活につなげて考えることができるような発問が掲載されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードが付いている教材があり、主に心情を考える読み物教材には「朗読」が掲載されている。 ・「資料」や「動画」が掲載されている場合は、教材の内容についての理解を補うための説明資料を見ることができる。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 日本文教出版株式会社 |
|-------------------|---|------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野で活躍する人物からのメッセージが「あすへのメッセージ」として掲載されており、授業後に読むことで、学んだ道徳的価値について生徒がさらに考えを深めることができるように工夫されている。 ・「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」について2～3つの教材をまとめて学習できるようユニットが組まれている。ユニットは、複数回に分けて学ぶ計画になっており、期間を空けて道徳的価値について何度も考えられるようになっている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びを深めよう」というページでは、具体的な道徳的行為の場面を想起して追体験したり役割演技をしたりする体験的な学習活動が設定されており、体験したことを基に話し合いをして、多様な考えに触れられるようになっている。 ・各教材の題名の下に、主な登場人物の名前とイラストや写真が掲載されており、具体的な人物をイメージして読めるように工夫されている。 ・別冊の道徳ノートがあり、書き込み欄が充実している。発問に対する自分の考えを記入した後、さらに友達の考えを記入できる「自分にプラスワン」という欄や、話し合ったことを自由に書き込むことができるような「自由欄」を設けるなど工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・別冊の道徳ノートには「自分への振り返り」の欄があり毎時間の振り返りを記入できる。また、巻末の「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」には、学期末に自分の学びを振り返り、成長したと思うこと、これからの自分にプラスしたいことを記入できる。 ・「視野を広げて」というコラムには、関連している教科名が明記されており、実生活にどのように生かすかを考えることができるような問いが掲載されている。 ・教材の終末に「自分にプラスワン」という欄を設け、「これから大切にしたいことは何だろう」等、学んだことを前向きに生かすための発問が掲載されており、実践につながるように工夫されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書とノートには同じ二次元コードが付いており、1人1台端末で自分の考えや話し合ったことなどを自由に書いたり入力したりできるようになっている。 ・「道具箱」の中には、思考ツールが入っており、自分の考えを整理したりまとめたりする際に活用できるようになっている。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 株式会社G a k k e n |
|-------------------|--|-----------------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容項目に関連した情報が書かれた「クローズアップ」というコラムが多数あり、道徳的価値の理解を深めることができるようになっている。 ・「SDGs」「多様性」「キャリア」の学習を重点としており、複数の教材で連続して学べるよう、ユニットとして配置されている。特に「多様性」については、福祉やLGBTQの面から考えを深められるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を通して、互いの考えの相違点や共通点を見つけ、多面的・多角的に考えることができるよう「深めよう」のコーナーが設定されている。 ・「深めよう」では、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」という順で、考えるための道筋が具体的な発問と共に記されており、生徒が書き込み欄を活用しながら考えを深められるようになっている。 ・各教材の「メモ」欄に、自分の考えを整理したりまとめたりすることができ、それらを基に話し合いにつなぐことができるよう工夫されている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末には、日々の授業について気付いたことを記録する「学びのメモ」と学期ごとに振り返る「学びの記録」があり、生徒自らが振り返って成長を実感したり、自分が関心のある道徳的価値に気付いたりできるように設定されている。 ・巻頭には、現代的な課題のイラストや写真を基に、自分を見つめ、興味をもっていることを記入することができるページがある。また、巻末には「未来への扉」として学びを振り返りながら未来をイメージして自分の思いを記入できるようなページが設けられている。 ・「考えよう」の欄には2つの発問があり、2つ目には、「できることは何だろう」等、実生活につなげていくにはどうしたらよいかを考えられるような発問が示されている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・10教材程度の読み物に二次元コードが付いており、動画、写真、年表、ワークシートのいずれかが掲載されている。 ・全学年「思考ツールの使い方」が掲載されており、5つのツールをダウンロードして、考えの整理に活用できるようになっている。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | あかつき教育図書株式会社 |
|-------------------|--|--------------|
| 観点 | 選定のための参考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Thinking」と題されたコラムが掲載されており、補助資料として、授業の終末や事後に読むことで思考を深める工夫がされている。「Thinking」の「SDGsの視点から」と「ふるさとに学びを広げよう」というページは全学年にあり、生徒の視野を広げられるようになっている。 ・全ての学年で「キャリア」「情報モラル」「いじめを考える」という複数教材をまとめて考えるユニット学習が組み立てられており、3年間を通して学習がつながるよう工夫されている。また、第2学年、第3学年には、「共に生きる社会」という共通のユニットがある。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の終末には「いろいろな見方で考える」という欄があり、自分の考えを1つに絞らずできるだけ多くの考えを出したり、一人の登場人物だけでなく他の登場人物の視点から考えたりできるよう設定されている。 ・1つのテーマについて、複数の内容項目から多面的・多角的に考えることができるよう、目次以外にテーマ別に教材がまとめて掲載されている「いろいろなテーマから学ぶ」というページがある。 ・各学年3つずつ掲載されている「MY PLUS」では、体験的な学習である役割演技が設定されていたり、多様な見方で考えることができるような視点が示されていたりする等、対話的な学びを促している。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「学習の記録」のページが設けられており、毎学期の振り返りや1年間の振り返りができるようになっている。成長を実感したり、自分を見つめこれから行動していきたいことを考えたりできるように設定されている。 ・巻末付録では、SDGsの目標と道徳科の学びの関連を示しており、1時間の学習で終わらず、継続的な学びの機会となるよう工夫されている。 ・教材の終末には、発問とは別に、「自分との対話」という欄が設けられており、自分自身を振り返ることができるよう工夫されている。また、「あなただったらどう思うだろうか」等、自分事として考え、実践につなげることができるような問い方をしている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・10教材程度の読み物に二次元コードが付いており、文部科学省や警視庁等の外部サイトに移ることができるようになっている。 ・導入動画、終末動画、資料動画と分けて掲載されており、授業で使いやすいよう工夫されている。 | |

| 種目名 道徳 | 発行者名 | 日本教科書株式会社 |
|-------------------|--|-----------|
| 観点 | 選 定 の た め の 参 考 | |
| A 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年に「古今東西」「わたしたちの郷土」のコラムページがあり、先人の名言に触れながら考えを深められるようになっている。 ・道徳科で取り扱う4つの内容項目に沿って教材が配列されており、各内容項目の最初に扉ページとして四コマ漫画が掲載されている。生徒の身近に起こる内容を基に描かれており、考えを広げるきっかけになるよう工夫されている。 | |
| B 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「ウェルビーイングカード」が掲載されている。教材を読み、自分が感じたことをキーワードが書かれたカードから選んで提示することで、その理由を友達と伝え合い、様々な見方や考え方を出し合うことができるよう工夫されている。 ・考えさせたい道徳的価値について、様々な立場の人の意見を掲載した教材があり、生徒がそれぞれの立場を理解した上で自分事として考えられるようになっている。 ・「memo」欄があり、教材を読みながら気になったことや自分の考えを書き留めたり、整理したりできるようになっている。 | |
| C 学びに向かう力、人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科の基盤となる、互いを尊重し合い関係を深め合う学級集団形成につながる「ガイダンス」ページが、各学年冒頭に掲載されている。ウォーミングアップとして、短い教材を使い試せるようになっている。 ・教材の終末に「考えよう」「深めよう」という2つの発問が掲載されており、「私たちはどうしたらよいだろう」等、自分自身の生活につなげて考えたり、これからの実践につなげて考えたりできるように工夫されている。 ・教材が内容項目ごとに掲載されているため、生徒の実態等に応じて学校で配列を変え、日常生活における実践につなげることができるようになっている。 | |
| デジタル教材について | <ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを読み込むとそれぞれの学年の教材について、動画、画像、音声・外部リンクに分けて閲覧できるようになっている。 ・外部サイトについては、文部科学省、総務省等につながるようになっており、教材の内容についての知識を広げられるよう工夫されている。 | |

参 考 資 料

調查結果（数值）

| | |
|-------------|---|
| 国 | 語 |
| 書 | 写 |
| 社 会（地理的分野） | |
| 社 会（歴史的分野） | |
| 社 会（公民的分野） | |
| 地 | 図 |
| 数 | 学 |
| 理 | 科 |
| 音 楽（一 般） | |
| 音 楽（器楽合奏） | |
| 美 | 術 |
| 保 健 体 育 | |
| 技術・家庭（技術分野） | |
| 技術・家庭（家庭分野） | |
| 英 | 語 |
| 道 | 徳 |

調査結果 国語

| | | 観点A | | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|--------------------|------------|-------------|-----------------|--------------|----------------|--------------|-------------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 言葉の活用 | 情報 | 我が国 | 話し | 読む | 書く | 学 | 国語 |
| | | の特徴や使用している方面に関する事項 | の扱い方に関する事項 | の言葉文化に関する事項 | 話し合ったり聞いたりする活動や | 取上げる文章や実用的な文 | 用事の本など文章や情報を得る | 習指導例が示されている | 科の学習が読書活動に結 |
| 東京書籍 | 1年生 | 48 | 13 | 13 | 4 | 8 | 17 | 21 | 16 |
| | 2年生 | 43 | 12 | 13 | 6 | 6 | 17 | 20 | 14 |
| | 3年生 | 44 | 9 | 19 | 5 | 6 | 17 | 20 | 15 |
| | 合計 | 135 | 34 | 45 | 15 | 20 | 51 | 61 | 45 |
| 三省堂 | 1年生 | 47 | 11 | 18 | 4 | 10 | 16 | 25 | 17 |
| | 2年生 | 47 | 11 | 17 | 7 | 9 | 16 | 27 | 19 |
| | 3年生 | 47 | 9 | 19 | 7 | 7 | 17 | 26 | 18 |
| | 合計 | 141 | 31 | 54 | 18 | 26 | 49 | 78 | 54 |
| 教育出版 | 1年生 | 50 | 6 | 16 | 7 | 11 | 16 | 23 | 12 |
| | 2年生 | 59 | 9 | 10 | 7 | 11 | 17 | 26 | 13 |
| | 3年生 | 56 | 7 | 17 | 10 | 10 | 21 | 28 | 9 |
| | 合計 | 165 | 22 | 43 | 24 | 32 | 54 | 77 | 34 |
| 光村図書 | 1年生 | 72 | 10 | 15 | 12 | 19 | 18 | 28 | 21 |
| | 2年生 | 68 | 11 | 12 | 11 | 15 | 21 | 25 | 19 |
| | 3年生 | 65 | 7 | 16 | 12 | 11 | 23 | 21 | 22 |
| | 合計 | 205 | 28 | 43 | 35 | 45 | 62 | 74 | 62 |

調査結果 書写

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C |
|--------|-----|------------------|----------|--------------|--------------|------------------------------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 |
| 調査研究事項 | 発行者 | の字形、文字の大きさ、配列の例示 | 楷書の例の箇所数 | 手本となっている文字の数 | 手本に関わる例示の箇所数 | （模造紙の紹介例の箇所数） 書きの能力を生かす様々な場面を書く |
| | | 東京書籍 | 個所数 | 43 | 49 | 6679 |
| | 合計 | 43 | 49 | 6679 | 251 | 80 |
| 三省堂 | 個所数 | 58 | 43 | 4631 | 100 | 26 |
| | 合計 | 58 | 43 | 4631 | 100 | 26 |
| 教育出版 | 個所数 | 16 | 18 | 4887 | 281 | 97 |
| | 合計 | 16 | 18 | 4887 | 281 | 97 |
| 光村図書 | 個所数 | 17 | 41 | 6850 | 158 | 45 |
| | 合計 | 17 | 41 | 6850 | 158 | 45 |

調査結果 社会(地)

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|--------|--|--|---|--|--|---|--|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 学知活て治我が 習識用、経国 内容で社会の のつきに、経 簡理けるに、 所解念るお 数させに、 るたに場 めす面 のするで | に効調 付果や け的に諸 るにに 学調 習資料 内容ま のめ 簡る 所様 数々な 技情 能報 を身 | にや社 考相会 察互の する事 学象 習をの 内意 容多 の面 簡的 所義 数・ 多 角 的 色 | 内け社 容て会 の選に見 簡択ら 所判れる 数断し 課題 たり すの る解 る決 る学 習向 | るり思 学、考 習そ・判 内容れ断 のをらした 簡を基こ 所をに 数論議 論し したり り明 りし すた | の的社 簡に会 所解の 数決実 し現象 よをに と視野 すに る課 る題 習を 内主 容よ 体い | た多社 め角会 的的 のな事 学考象 習察に 内容や の深く 簡理 所解 数さ せる ・ |
| | 東京書籍 | 個所数 | 115 | 80 | 13 | 10 | 54 | 8 |
| | 合計 | 115 | 80 | 13 | 10 | 54 | 8 | 22 |
| 教育出版 | 個所数 | 243 | 39 | 18 | 12 | 44 | 4 | 9 |
| | 合計 | 243 | 39 | 18 | 12 | 44 | 4 | 9 |
| 帝国書院 | 個所数 | 201 | 138 | 19 | 7 | 59 | 44 | 10 |
| | 合計 | 201 | 138 | 19 | 7 | 59 | 44 | 10 |
| 日本文教出版 | 個所数 | 76 | 96 | 18 | 10 | 32 | 4 | 26 |
| | 合計 | 76 | 96 | 18 | 10 | 32 | 4 | 26 |

調査結果 社会(歴)

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|--------|--|---|---|---|--|---|--|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 学知活治我 習識用、が 内容で社経国 のつぎ会済の 箇てにお国土 所理念け際と 数解な様係史 せどな々等、 るにに現 た場関代 めす面し の政 | に効調査 付果や ける的諸 るにに調 学習資料 内容まから の箇とめ様 所技能な々 数を情 を報 身を | にや社 考相会 察互的 すの事 学連象 習を意 内容味 の箇多 所・義 数角、 特 色的 | 内け社 容て会 の選に 箇択見 所・判 数断 断し 課 した り の解 決 学 習 向 | るり思 学、考 習そ・判 内容れ断 のをした 箇基こ 所議 数論 を 説 し 明 り し た | の的社 箇に会 所解の 数決実 し現象 よを とつ 野い す る 課 題 を り よ い | た多社 め角的 的 学事 習考 内容象 の深 いて の箇 所理 数解 させ る・ |
| | 東京書籍 | 個所数 | 200 | 134 | 136 | 4 | 127 | 10 |
| | 合計 | 200 | 134 | 136 | 4 | 127 | 10 | 40 |
| 教育出版 | 個所数 | 204 | 13 | 71 | 72 | 159 | 17 | 95 |
| | 合計 | 204 | 13 | 71 | 72 | 159 | 17 | 95 |
| 帝国書院 | 個所数 | 268 | 104 | 139 | 6 | 144 | 87 | 107 |
| | 合計 | 268 | 104 | 139 | 6 | 144 | 87 | 107 |
| 山川出版社 | 個所数 | 159 | 207 | 89 | 0 | 14 | 9 | 56 |
| | 合計 | 159 | 207 | 89 | 0 | 14 | 9 | 56 |
| 日本文教出版 | 個所数 | 252 | 49 | 42 | 96 | 147 | 10 | 25 |
| | 合計 | 252 | 49 | 42 | 96 | 147 | 10 | 25 |
| 自由社 | 個所数 | 133 | 57 | 20 | 12 | 36 | 4 | 54 |
| | 合計 | 133 | 57 | 20 | 12 | 36 | 4 | 54 |
| 育鵬社 | 個所数 | 209 | 31 | 61 | 25 | 129 | 11 | 81 |
| | 合計 | 209 | 31 | 61 | 25 | 129 | 11 | 81 |
| 学び舎 | 個所数 | 48 | 10 | 10 | 1 | 15 | 6 | 3 |
| | 合計 | 48 | 10 | 10 | 1 | 15 | 6 | 3 |
| 令和書籍 | 個所数 | 137 | 16 | 26 | 5 | 31 | 4 | 2 |
| | 合計 | 137 | 16 | 26 | 5 | 31 | 4 | 2 |

調査結果 社会(公)

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|-------------------|----------------|----------------|---------------------|----------------------|--------------------|------------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 学習内容の箇条 | に効付ける学習内容の箇条 | にや相察する学習内容の箇条 | 内付社会の選択・判断の課題の解決に習向 | るり思考・判断の基に議論を説明したりした | の的社会的現象について、学習内容を主 | た多社会的な事象の深い理解を促す |
| | | 活用にできるおける様々に現代的政治 | 効果や諸資料から様々な情報を | 社会的な意味や意義、多角的色 | | | | |
| 東京書籍 | 個所数 | 529 | 54 | 28 | 8 | 32 | 39 | 12 |
| | 合計 | 529 | 54 | 28 | 8 | 32 | 39 | 12 |
| 教育出版 | 個所数 | 593 | 20 | 39 | 3 | 17 | 42 | 14 |
| | 合計 | 593 | 20 | 39 | 3 | 17 | 42 | 14 |
| 帝国書院 | 個所数 | 489 | 25 | 56 | 23 | 131 | 35 | 9 |
| | 合計 | 489 | 25 | 56 | 23 | 131 | 35 | 9 |
| 日本文教出版 | 個所数 | 384 | 15 | 26 | 6 | 57 | 30 | 27 |
| | 合計 | 384 | 15 | 26 | 6 | 57 | 30 | 27 |
| 自由社 | 個所数 | 236 | 7 | 8 | 6 | 34 | 4 | 1 |
| | 合計 | 236 | 7 | 8 | 6 | 34 | 4 | 1 |
| 育鵬社 | 個所数 | 443 | 36 | 36 | 12 | 28 | 13 | 6 |
| | 合計 | 443 | 36 | 36 | 12 | 28 | 13 | 6 |

調査結果 社会地図

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|------|--------|----------------------------------|--------------------------------|--|----------------------------------|--------------|--------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 活用地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数 | 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数 | 基本図、世界州別図、日本地域別図（世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図） | 資料図の箇所数（社会的な事象の関わり、自然環境との関係、その他） | 資料図のテーマの数 | 巻末の統計資料の項目の数 |
| | 東京書籍 | 個所数 | 5 | 74 | 63 | 437 | 272 |
| 合計 | | 5 | 74 | 63 | 437 | 272 | 5 |
| 帝国書院 | 個所数 | 7 | 156 | 66 | 691 | 284 | 15 |
| | 合計 | 7 | 156 | 66 | 691 | 284 | 15 |

調査結果 数学

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|--------|---------------------------------|------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | の「知識量や図形にたいしての基礎的な例題」を問う練習問題とする | 学習のまとめ、事項の公式や性質を | 「例題」の「例題」を問う | 「問題」の「問題」を問う | 「問題」の「問題」を問う | 「問題」の「問題」を問う | 「問題」の「問題」を問う |
| | | | | | | | | |
| 東京書籍 | 1年生 | 1486 | 342 | 94 | 52 | 149 | 32 | 45 |
| | 2年生 | 781 | 216 | 81 | 48 | 78 | 22 | 30 |
| | 3年生 | 1228 | 230 | 136 | 58 | 90 | 17 | 39 |
| | 合計 | 3495 | 788 | 311 | 158 | 317 | 71 | 114 |
| 大日本図書 | 1年生 | 1644 | 385 | 164 | 37 | 152 | 16 | 54 |
| | 2年生 | 907 | 213 | 238 | 45 | 65 | 17 | 43 |
| | 3年生 | 1264 | 225 | 225 | 68 | 79 | 15 | 51 |
| | 合計 | 3815 | 823 | 627 | 150 | 296 | 48 | 148 |
| 学校図書 | 1年生 | 1421 | 385 | 284 | 34 | 126 | 18 | 45 |
| | 2年生 | 674 | 193 | 233 | 30 | 112 | 13 | 29 |
| | 3年生 | 1049 | 211 | 237 | 47 | 73 | 17 | 46 |
| | 合計 | 3144 | 789 | 754 | 111 | 311 | 48 | 120 |
| 教育出版 | 1年生 | 1512 | 365 | 285 | 40 | 112 | 13 | 42 |
| | 2年生 | 854 | 242 | 169 | 38 | 118 | 9 | 30 |
| | 3年生 | 1222 | 260 | 169 | 38 | 118 | 8 | 37 |
| | 合計 | 3588 | 867 | 623 | 116 | 348 | 30 | 109 |
| 啓林館 | 1年生 | 1313 | 400 | 149 | 17 | 104 | 7 | 39 |
| | 2年生 | 629 | 193 | 146 | 20 | 101 | 8 | 23 |
| | 3年生 | 1049 | 189 | 301 | 14 | 86 | 11 | 22 |
| | 合計 | 2991 | 782 | 596 | 51 | 291 | 26 | 84 |
| 数研出版 | 1年生 | 1237 | 310 | 157 | 39 | 86 | 8 | 30 |
| | 2年生 | 733 | 203 | 137 | 14 | 59 | 4 | 20 |
| | 3年生 | 1158 | 219 | 211 | 12 | 95 | 6 | 26 |
| | 合計 | 3128 | 732 | 505 | 65 | 240 | 18 | 76 |
| 日本文教出版 | 1年生 | 1628 | 360 | 224 | 25 | 109 | 17 | 27 |
| | 2年生 | 854 | 205 | 185 | 38 | 67 | 19 | 19 |
| | 3年生 | 1199 | 212 | 180 | 41 | 43 | 20 | 27 |
| | 合計 | 3681 | 777 | 589 | 104 | 219 | 56 | 73 |

調査結果 理科

| | | 観点A | | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|------------------|--------------------|---------------------|--------------------------|-----------------|-----------------|------------------|-------------------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 安全な観察、実験の方法、器具や機 | し文観、察記録やグラフに表す活動を示 | 所単元ごとや章末の練習問題を工夫の等及 | 計し問題を予想や仮説として課題を設定する筒所数の | 力結果を分析して解釈する筒所数 | す探究の過程を振り返る活動に関 | 所高然社科学の活用等、実生活、自 | 数活題自然環境の調査、自由研究の管 |
| | | などの使用及び事故防止等の器 | した表やグラフに表す活動を示 | 及び | の | する | 関 | 実 | 課 |
| 東京書籍 | 1年生 | 95 | 23 | 30 | 130 | 70 | 15 | 80 | 31 |
| | 2年生 | 104 | 29 | 38 | 148 | 84 | 20 | 115 | 29 |
| | 3年生 | 102 | 31 | 35 | 140 | 84 | 22 | 122 | 39 |
| | 合計 | 301 | 83 | 103 | 418 | 238 | 57 | 317 | 99 |
| 大日本出版 | 1年生 | 116 | 29 | 34 | 112 | 29 | 5 | 76 | 17 |
| | 2年生 | 138 | 32 | 36 | 145 | 43 | 4 | 111 | 9 |
| | 3年生 | 123 | 24 | 42 | 145 | 31 | 15 | 122 | 12 |
| | 合計 | 377 | 85 | 112 | 402 | 103 | 24 | 309 | 38 |
| 学校図書 | 1年生 | 92 | 21 | 16 | 125 | 25 | 4 | 64 | 8 |
| | 2年生 | 104 | 29 | 20 | 166 | 18 | 10 | 77 | 2 |
| | 3年生 | 61 | 22 | 16 | 139 | 20 | 8 | 98 | 11 |
| | 合計 | 257 | 72 | 52 | 430 | 63 | 22 | 239 | 21 |
| 教育出版 | 1年生 | 134 | 23 | 38 | 90 | 30 | 0 | 69 | 35 |
| | 2年生 | 168 | 30 | 36 | 111 | 32 | 1 | 85 | 37 |
| | 3年生 | 129 | 23 | 38 | 110 | 27 | 6 | 106 | 60 |
| | 合計 | 431 | 76 | 112 | 311 | 89 | 7 | 260 | 132 |
| 啓林館 | 1年生 | 156 | 34 | 31 | 112 | 29 | 28 | 93 | 37 |
| | 2年生 | 148 | 32 | 43 | 135 | 44 | 37 | 136 | 23 |
| | 3年生 | 111 | 31 | 43 | 145 | 38 | 26 | 130 | 55 |
| | 合計 | 415 | 97 | 117 | 392 | 111 | 91 | 359 | 115 |

調査結果 音楽

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|-------|--------|-----------------|--------------------|------------------------------------|------------|-----------------|---------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 知識の習得に関する記述の箇所数 | 表現の技能を高めるための記述の箇所数 | 設定された課題を解決するために必要な要素を考慮して活動している箇所数 | 見られる記述の箇所数 | いろいろな演奏形態による教材数 | 活動が設定されている箇所数 |
| | 1年生 | 40 | 6 | 42 | 15 | 32 | 9 |
| 教育出版 | 23年上 | 49 | 2 | 53 | 4 | 31 | 10 |
| | 23年下 | 36 | 3 | 48 | 12 | 26 | 11 |
| | 合計 | 125 | 11 | 143 | 31 | 89 | 30 |
| | 1年生 | 36 | 5 | 50 | 5 | 29 | 18 |
| 教育芸術社 | 23年上 | 37 | 4 | 47 | 7 | 26 | 12 |
| | 23年下 | 27 | 4 | 34 | 6 | 36 | 4 |
| | 合計 | 100 | 13 | 131 | 18 | 91 | 34 |

※発行者の特長である項目について、各発行者の学年ごとに3つずつ○印を付しています。

調査結果 音楽(器)

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|-------|--------|-----------------|--------------------|--------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 知識の習得に関する記述の箇所数 | 表現の技能を高めるための記述の箇所数 | 設定された記述の箇所数 | 見られる記述の箇所数 | いろいろな演奏形態による教材数 | 活動が設定された記述の箇所数 |
| | | | | とて音楽を形づくっている要素について | 楽譜の理解を深めるための工夫が | | で覚・感受したことを様々な方法 |
| 教育出版 | 個所数 | 50 | 28 | 52 | 8 | 73 | 6 |
| | 合計 | 50 | 28 | 52 | 8 | 73 | 6 |
| 教育芸術社 | 個所数 | 36 | 49 | 31 | 13 | 54 | 0 |
| | 合計 | 36 | 49 | 31 | 13 | 54 | 0 |

調査結果 美術

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | | |
|--------|--------|----------------|--|----------------|-------------------------------|---------------|----------------------|------------------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 特徴などについて扱った箇所数 | 要素に着目してその働きを捉えたり、全体にわたって掘り下げるなど、材料や色彩、目ざらしの造形などの色、光などの造形 | 技法等の手順を紹介した箇所数 | 習言活動の充実に関する教材や学習活動の設定されている箇所数 | 鑑賞の活動に関する題材の数 | 美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数 | 生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数 |
| | 開隆堂 | 1年生 | 32 | 14 | 7 | 15 | 49 | 34 |
| | 2・3年生 | 80 | 17 | 21 | 29 | 55 | 51 | |
| | 合計 | 112 | 31 | 28 | 44 | 104 | 85 | |
| 光村図書出版 | 1年生 | 40 | 33 | 13 | 22 | 47 | 43 | |
| | 2・3年生 | 35 | 19 | 10 | 30 | 52 | 31 | |
| | 合計 | 75 | 52 | 23 | 52 | 99 | 74 | |
| 日本文教出版 | 1年生 | 58 | 22 | 8 | 21 | 64 | 24 | |
| | 2・3年生 | 64 | 14 | 10 | 42 | 114 | 29 | |
| | 合計 | 122 | 36 | 18 | 63 | 178 | 53 | |

調査結果 保健体育

| | | 観点A | | | 観点B | | 観点C | | |
|--------|--------|--------|-------|-------|--------------|-------|--------------|-------|------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | | |
| 発行者 | 調査研究事項 | りるり運 | 扱を健 | の又健心 | 取すす題身 | て真ど実 | な方運 | 事にやや自 | なな身 |
| | | 抜・方動 | っ高康 | 技ト康の | りる資材近 | 解やを踐 | 共を動 | 例活回や自 | 内どな |
| | | つ支へ楽 | てめや体 | 能レ課健 | 上課料に日 | 説図取の理 | 生共やス | や動復己の | 容を肯健 |
| | | てえるし | る必力 | にス題康 | げ題をし常 | し、り理 | の有スポ | 問すの健康 | を取りや |
| | | る・みツ | る必要の状 | 対のや疾 | てを用た活 | たグリ上げ | 点のこの | のよめ康・ | りの心的 |
| | | る方ツと | 簡要性状況 | す処解疾 | る決めて生 | り上げを促 | のさきに・安 | の簡所に主 | 上げ捉身 |
| | | るや多 | につい | るや決病 | る解合活 | して、りす | 安全に | 簡所に全 | てえの発 |
| | | る様 | てい | るや予防 | る健康や体 | い表、ため | く、保す | 簡所に全 | るれ育 |
| | | るな | て取 | るや蘇わに | るなコラに | るなコラに | よ協持 | 簡所に全 | るれ育 |
| | | る・開 | り取 | るや蘇わに | るなコラに | るなコラに | よ協持 | 簡所に全 | るれ育 |
| | | みわ | り力 | るや蘇わに | るなコラに | るなコラに | よ協持 | 簡所に全 | るれ育 |
| 東京書籍 | 個所数 | 135 | 29 | 358 | 346 | 503 | 73 | 160 | 31 |
| | 合計 | 135 | 29 | 358 | 346 | 503 | 73 | 160 | 31 |
| 大日本図書 | 個所数 | 157 | 40 | 377 | 190 | 854 | 57 | 112 | 33 |
| | 合計 | 157 | 40 | 377 | 190 | 854 | 57 | 112 | 33 |
| 大修館 | 個所数 | 100 | 28 | 336 | 218 | 764 | 68 | 69 | 29 |
| | 合計 | 100 | 28 | 336 | 218 | 764 | 68 | 69 | 29 |
| Gakken | 個所数 | 127 | 22 | 368 | 455 | 892 | 76 | 62 | 17 |
| | 合計 | 127 | 22 | 368 | 455 | 892 | 76 | 62 | 17 |

調査結果 技術

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|------|--------|--|---|--|---|---|--|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 所仕のギ材 組科―料 み学変、 に学的換 つな及工 い原び、 て理情生 取や報物 り法の育 上則技成 げ、術に て基つエ い礎つネ るのル 的い 筒な | て等製 いるが作 箇きでや 所る裁培 数技能又 は飼育 につい て取 り・ 上点 げ検 | 所生 数活 問や 題に に社 いの て中 取に りあ る 上 げ 技 術 に い る 関 わ | 数過課 程題 にを つ設 い定 てし 取解 り決 上す げ一 て連 いる 箇の 所学 数習 | に改問 つ善題 い、解 て修決 取正と りやそ 上生の げ活過 てへの いる活 箇用を 所返 数仕 方、 | 箇会り環 所のや境 数構よや 築り経 によ濟 関い、 して生 て活、 取持 り続 上術 げと て能 いな る社 わ |
| | 東京書籍 | 個所数 | 167 | 97 | 65 | 84 | 39 |
| | 合計 | 167 | 97 | 65 | 84 | 39 | 60 |
| 教育図書 | 個所数 | 121 | 165 | 31 | 50 | 59 | 44 |
| | 合計 | 121 | 165 | 31 | 50 | 59 | 44 |
| 開隆堂 | 個所数 | 213 | 119 | 75 | 57 | 80 | 44 |
| | 合計 | 213 | 119 | 75 | 57 | 80 | 44 |

調査結果 家庭

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|--------|-----|-----------|-----------------|---------------------|--------------------|--------------|-----------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 資料に家族の筒所数 | 内容をとり上げた筒所数 | 数や家庭学習活動が活用されている筒所数 | 問題を解決的な学習の一連の学習過程 | 箇所の数 | ていた指導の筒所数 |
| | | 資に家族の筒所数 | 容理や製作などの技能に関する内 | 数や家庭学習活動が活用されている筒所数 | 程問題を解決的な学習の一連の学習過程 | 箇所の数 | ていた指導の筒所数 |
| 東京書籍 | 個所数 | 247 | 119 | 189 | 75 | 152 | 79 |
| | 合計 | 247 | 119 | 189 | 75 | 152 | 79 |
| 教育図書 | 個所数 | 226 | 84 | 251 | 52 | 124 | 48 |
| | 合計 | 226 | 84 | 251 | 52 | 124 | 48 |
| 開隆堂 | 個所数 | 339 | 101 | 219 | 8 | 135 | 96 |
| | 合計 | 339 | 101 | 219 | 8 | 135 | 96 |

調査結果 英語

| | | 観点A | | 観点B | | | 観点C | |
|--------|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 調査研究事項 | 発行者 | 聞くこと 「聞くこと」 技能別 (「読むこと」 領域別) 活動の | 話すこと 「話すこと」 技能別 (「読むこと」 領域別) 活動の | 読むこと 「読むこと」 技能別 (「話すこと」 領域別) 活動の | 書くこと 「書くこと」 技能別 (「読むこと」 領域別) 活動の | 話すこと 「話すこと」 技能別 (「読むこと」 領域別) 活動の | 読むこと 「読むこと」 技能別 (「話すこと」 領域別) 活動の | 書くこと 「書くこと」 技能別 (「読むこと」 領域別) 活動の |
| | | 東京書籍 | 1年生 | 99 | 113 | 37 | 26 | 31 |
| 2年生 | 100 | | 143 | 50 | 53 | 28 | 36 | 33 |
| 3年生 | 89 | | 113 | 41 | 47 | 26 | 32 | 33 |
| 合計 | 288 | | 369 | 128 | 126 | 85 | 92 | 105 |
| 開隆堂 | 1年生 | 101 | 116 | 49 | 18 | 28 | 32 | 27 |
| | 2年生 | 142 | 116 | 62 | 32 | 29 | 23 | 23 |
| | 3年生 | 132 | 97 | 65 | 24 | 31 | 16 | 22 |
| | 合計 | 375 | 329 | 176 | 74 | 88 | 71 | 72 |
| 三省堂 | 1年生 | 87 | 133 | 61 | 33 | 53 | 25 | 23 |
| | 2年生 | 113 | 140 | 61 | 35 | 51 | 21 | 26 |
| | 3年生 | 110 | 133 | 62 | 38 | 32 | 20 | 21 |
| | 合計 | 310 | 406 | 184 | 106 | 136 | 66 | 70 |
| 教育出版 | 1年生 | 118 | 95 | 54 | 19 | 26 | 18 | 11 |
| | 2年生 | 142 | 103 | 66 | 27 | 24 | 20 | 29 |
| | 3年生 | 140 | 84 | 72 | 29 | 35 | 13 | 28 |
| | 合計 | 400 | 282 | 192 | 75 | 85 | 51 | 68 |
| 光村図書 | 1年生 | 114 | 97 | 47 | 25 | 24 | 17 | 12 |
| | 2年生 | 107 | 113 | 69 | 38 | 32 | 17 | 23 |
| | 3年生 | 108 | 90 | 72 | 40 | 19 | 13 | 25 |
| | 合計 | 329 | 300 | 188 | 103 | 75 | 47 | 60 |
| 啓林館 | 1年生 | 103 | 112 | 60 | 24 | 35 | 32 | 18 |
| | 2年生 | 134 | 141 | 59 | 41 | 48 | 35 | 28 |
| | 3年生 | 102 | 98 | 50 | 29 | 37 | 23 | 20 |
| | 合計 | 339 | 351 | 169 | 94 | 120 | 90 | 66 |

調査結果 道徳

| | | 観点A | | 観点B | | 観点C | |
|----------|--------|----------------|----------------|----------------|-----------------------|---------------|-----------------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
| 発行者 | 調査研究事項 | 活動的価値の理解に関わる学習 | 現代的な課題に関する内容等多 | 物事を多面的・多角的に考える | 多様な考え方を生かすための言語活動の箇所数 | 自ら振り返り、成長を実感し | 各教科等と関連をもたせた実践の |
| | | 東京書籍 | 1年生 | 17 | 31 | 12 | 51 |
| 2年生 | 14 | | 33 | 7 | 47 | 10 | 33 |
| 3年生 | 18 | | 35 | 9 | 51 | 7 | 35 |
| 合計 | 49 | | 99 | 28 | 149 | 28 | 105 |
| 教育出版 | 1年生 | 7 | 27 | 15 | 17 | 9 | 31 |
| | 2年生 | 5 | 23 | 10 | 13 | 7 | 27 |
| | 3年生 | 5 | 25 | 10 | 11 | 8 | 25 |
| | 合計 | 17 | 75 | 35 | 41 | 24 | 83 |
| 光村図書 | 1年生 | 5 | 27 | 32 | 14 | 7 | 25 |
| | 2年生 | 6 | 24 | 30 | 16 | 9 | 26 |
| | 3年生 | 7 | 22 | 26 | 12 | 8 | 34 |
| | 合計 | 18 | 73 | 88 | 42 | 24 | 85 |
| 日本文教出版 | 1年生 | 14 | 27 | 6 | 42 | 44 | 38 |
| | 2年生 | 12 | 32 | 7 | 43 | 44 | 32 |
| | 3年生 | 13 | 30 | 7 | 44 | 41 | 31 |
| | 合計 | 39 | 89 | 20 | 129 | 129 | 101 |
| Gakken | 1年生 | 19 | 35 | 7 | 44 | 9 | 28 |
| | 2年生 | 18 | 35 | 6 | 46 | 10 | 16 |
| | 3年生 | 17 | 31 | 11 | 45 | 9 | 19 |
| | 合計 | 54 | 101 | 24 | 135 | 28 | 63 |
| あかつき教育図書 | 1年生 | 11 | 26 | 12 | 3 | 11 | 15 |
| | 2年生 | 9 | 25 | 11 | 4 | 10 | 15 |
| | 3年生 | 8 | 27 | 17 | 1 | 10 | 14 |
| | 合計 | 28 | 78 | 40 | 8 | 31 | 44 |
| 日本教科書 | 1年生 | 2 | 23 | 6 | 32 | 3 | 13 |
| | 2年生 | 2 | 22 | 8 | 37 | 1 | 17 |
| | 3年生 | 2 | 23 | 4 | 40 | 1 | 18 |
| | 合計 | 6 | 68 | 18 | 109 | 5 | 48 |